

平成 25 年度 使用済製品等のリユース促進事業研究会
報告書

平成 26 年 3 月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室

《目次》

本事業の目的と概要	1
第1章 使用済製品のリユースに関するモデル事業	6
<モデル事業の実施概要>	6
I. 群馬県前橋市	7
II. 神奈川県葉山町	36
第2章 平成24年度・平成23年度モデル事業のフォローアップ調査	65
I. 平成24年度モデル事業 フォローアップ調査	65
II. 平成23年度モデル事業フォローアップ調査	73
第3章 リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境の整理	82

本事業の目的と概要

使用済製品の3R（リデュース、リユース、リサイクル）のうち、リサイクルについては、特定家庭用機器再商品化法や資源の有効な利用の促進に関する法律に基づき、一定程度進展しつつある一方で、製品の適正な継続使用の促進を通じた廃棄物の減量化（リデュース、リユース）については、より一層の促進が必要とされている。

平成22年度より「使用済製品等のリユース促進事業研究会」を設置し、環境保全上の効果の点からも推進することが望ましいリユースに関する様々な取組の活性化を図るため事業を実施しているところである。

平成25年度の事業では、市町村とリユース業者や市民団体・NPO等との連携によるリユースモデル事業の実施及び平成23・24年度に実施したリユースモデル事業のフォローアップ調査、リユース業界を取り巻く法的環境の整理の検討等を通じて、今後のリユース推進に向けた課題や支援策を検討することを目的とした。

具体的には以下3つの調査・事業を実施した

- 1 市町村とリユース事業者や市民団体・NPO等との連携によるリユースのモデル事業
- 2 使用済製品のリユースに関するモデル事業フォローアップ調査
- 3 リユース業界を取り巻く法的環境の整理

調査の実施に当たっては、リユースに詳しい研究者、関係業界等の有識者の方を構成員とした研究会を開催し、多角的な検討をいただいた。また、研究会と並行して「リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境整理」の検討を行う研究会分科会にて集中的に議論を行った。

研究会及び研究会分科会のメンバー及び検討の経緯は以下の通りである。

平成25年度 使用済製品等のリユース促進事業研究会
研究会メンバー

<座長>

三橋 規宏 千葉商科大学 名誉教授

<委員>

小野田弘士 早稲田大学環境総合研究センター 准教授

加藤 正 公益財団法人市川市清掃公社 前理事長

喜志 武弘 ヤフー株式会社 ヤフオク!カンパニー ヤフオク!事業本部
ユニット推進室 特命 リーダー

佐々木五郎 公益社団法人全国都市清掃会議 専務理事

佐々木 創 中央大学経済学部 准教授

杉 研也 日本リユース業協会 事務局

田崎 智宏 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
循環型社会システム研究室 室長

手塚 一郎 清和大学法学部 講師

長沢 伸也 早稲田大学大学院商学研究科 教授

波多部 彰 一般社団法人日本リユース機構 代表理事

服部美佐子 NPO 法人持続社会を実現する市民プロジェクト 代表理事

藤田 惇 一般社団法人ジャパンリサイクルアソシエーション 代表理事

和田 由貴 3R 推進マイスター、節約アドバイザー

<オブザーバー>

信田 哲宏 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 課長補佐

瀧屋 直樹 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 企画三係長(3R担当)

伊藤 暁 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課環境リサイクル室 室長補佐

羽端 大 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課環境リサイクル室 係長

<事務局(環境省)>

庄子 真憲 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長

眼目 佳秀 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐(総括)

鍋谷芳比古 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐

山田 智子 環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室 室長補佐

山崎 剛 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 主査

<事務局(委託先)>

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 環境・エネルギー部

平成25年度 使用済製品等のリユース促進事業研究会
検討の経緯

【第12回 研究会（11月18日（月）10：00～12：00）】

< 議題 >

- ・平成24年度事業の成果の取りまとめについて
- ・平成25年度の実施内容について
 - 市町村における使用済製品リユースモデル事業の概要
 - リユース業界を取り巻く法的環境の整理の実施方針

【第13回 研究会（2月14日（金）10：00～12：00）】

< 議題 >

- ・市町村における使用済製品リユースモデル事業の概要
- ・リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境整理に関する検討（中間報告）
- ・市町村におけるリユースの取組み状況（アンケート調査結果）

【第14回 研究会（3月28日（金）10：00～12：00）】

< 議題 >

- ・市町村における使用済製品リユースモデル事業（成果報告）
- ・リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境整理
- ・今後のリユース促進に向けて

リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境整理に関する分科会
分科会メンバー

<座長>

三橋 規宏 千葉商科大学 名誉教授

<委員>

阿部 鋼 阿部記念法律事務所 所長
岩城 吉英 大阪湾広域臨海環境整備センター 業務課 課長補佐
佐々木 創 中央大学経済学部 准教授
田崎 智宏 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
循環型社会システム研究室 室長
手塚 一郎 清和大学法学部 講師

<リユース業界団体>

藤田 惇 一般社団法人ジャパンリサイクルアソシエーション 代表理事
加藤 親男 一般社団法人ジャパンリサイクルアソシエーション 事務局
波多部 彰 一般社団法人日本リユース機構 代表理事
上本 忠雄 一般社団法人日本リユース機構 顧問弁護士
杉 研也 日本リユース業協会 事務局
澤田 卓 日本リユース業協会 事務局

<オブザーバー>

信田 哲宏 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 課長補佐
瀧屋 直樹 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 企画三係長(3R担当)
伊藤 暁 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課環境リサイクル室 室長補佐
羽端 大 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課環境リサイクル室 係長

<事務局(環境省)>

眼目 佳秀 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐(総括)
鍋谷芳比古 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐
山田 智子 環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室 室長補佐
玉井 和仁 環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室 係長
山崎 剛 環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 主査

<事務局(委託先)>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 環境・エネルギー部

リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境整理に関する分科会
分科会検討の経緯

【第1回 分科会（12月16日（月）16：00～18：00）】

< 議題 >

- ・リユース業界を取り巻く法的環境の整理方針について
- ・リユース業界団体における関連法令遵守に向けた取組

【第2回 分科会（1月17日（金）15：00～17：00）】

< 議題 >

- ・リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境の整理について（途中整理案）について

【第3回 分科会（3月7日（金）13：00～15：00）】

< 議題 >

- ・リユース業界を取り巻く環境関連法の法的環境の整理について
- ・普及啓発用パンフレット（案）について

第 1 章 使用済製品のリユースに関するモデル事業

< モデル事業の実施概要 >

市町村とリユース事業者や市民団体・NPO 等とが連携し、地域の特性にあったモデル事業として、市町村からの事業内容の提案を受けて、群馬県前橋市、神奈川県葉山町の 1 市 1 町でモデル事業を実施しているところである。各地域の事業概要は以下の通りである。

平成 25 年度市町村におけるリユースモデル事業の概要

	群馬県前橋市	神奈川県葉山町
名称	リユース宝市	くるくる市
事業概要	開催テーマ「私にとっては不用でも、誰かにとっては宝物」とし、家庭に眠る"使えるけど使わない品物"をイベント当日に持参いただき、集まったものを無料で提供・交換するイベント。 市民団体、民間事業者とも連携し、残った製品等も可能な限りリユースを行う。	町民にリユース可能な製品を持ち込んでいただき、欲しい品を無料で持ち帰ってもらうイベント。町民を対象。 残った製品等は、リユース事業者にて引き取りしてもらい可能な限りリユースを行う。
リユース対象品目	衣類・くつ・かばん、ホビー用品、生活雑貨、書籍、育児用品、おもちゃ、小型の家具	衣類、本、食器、バッグ、靴、ぬいぐるみ、おもちゃ、その他日用品
役割分担	【行政】企画・開催、市民への広報、残った製品の処理 【市民団体】イベント開催支援 【民間事業者】リユース品の提供、残った製品等のリユース・リサイクル	【行政】企画・開催、町民への広報、残った製品の処理 【市民団体】イベント開催支援 【民間事業者】残った製品の査定・受け取り
実施期間	12 月 21 日（土）	12 月 15 日（日）、1 月 19 日（日）、 2 月 9 日（日）

以降、モデル事業の実施報告書を掲載する。

I. 群馬県前橋市

前橋市リユースモデル事業 報告書

1. リユースモデル事業の概要

(1) プランの概要

リユース品の使用及び提供を普及啓発するイベント「リユース宝市」を開催する。テーマを「私にとっては不用でも、誰かにとっては宝物」とし、家庭に眠る“使えるけど使わない品物”をイベント当日に持参いただき、集まったものを無料で提供・交換するイベントを開催する。市民団体、民間事業者とも連携し、残った製品等も可能な限りリユースを行う。

「リユース宝市」は、平成26年12月21日(土)にグリーンドーム前橋サブイベントエリアにて開催した。

対象品目

市民の方から提供いただくリユース品は、「衣類」、「ホビー用品」、「生活雑貨」、「書籍」、「育児用品」、「おもちゃ」、「家具」とし、食料品、電化製品、医療・介護機器などは対象外とした。

市民は、提供した品物が残った場合にも、持ち帰りの必要はなく、前橋市においてリユース・リサイクル可能なものを仕分けし、市民団体等でのリユース利用、リユース・リサイクル事業者への引渡し、または前橋市にて適正処理を行う。具体的には、市民団体(南橋リサイクルの会)が定期開催しているリユース品交換会に出品できるものを選別し別途保管、次いで古着・古紙を選別しそれぞれリサイクル業者に引き渡し、これ以外のものは前橋市清掃工場等で処分する。

「リユース宝市」で対象としたリユース品

品目	詳細説明
衣類	洗濯済でまだ着られるもの、靴、かばん、帽子も対象
ホビー用品	アウトドア、スポーツ用品(スキー、スノーボード、自転車は不可)
生活雑貨	未使用の贈答品・日用品、新品同様の小物雑貨など(刃物は不可)
書籍	絵本、漫画、一般書籍(雑誌は不可)
育児用品	マタニティ用品、ベビー用品(チャイルドシートは不可)
玩具	ぬいぐるみ、ブロック1個から、知育玩具、ジャングルジムなど
家具	カラーボックス程度の小型家具、小型ソファ、衣装ケースなど汚れ破損が少なく使用できるもの(大型家具は不可)

取組の概要

「リユース宝市」開催に向けた事前準備等を含めたスケジュールは下記の通りである。11月下旬～12月上中旬にかけて、市のウェブサイトでの案内、ちらしの自治体回覧、ラジオCMの放送、地元フリークーポン紙への広告掲載などの広報活動を実施し、リユース品の事前収集

を行った。

「リユース宝市」開催に向けたスケジュール

日時	取組内容
事前準備 (10～12月中旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・資材準備、関係者との調整などの事前準備(10、11月) ・広報活動(ちらしの自治会回覧、ラジオCMの放送、ラジオ番組への出演、地元フリークーポン紙への広告掲載など 11、12月) ・リユース品の事前収集の実施(回収ボックス(3カ所)粗大ごみからの料品ピックアップなど 11、12月)
12月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・会場設営、事前収集したリユース品の陳列など
12月21日(土) リユース宝市開催	<ul style="list-style-type: none"> ・午前11時～午後1時:参加者からのリユース品提供、会場内への陳列 ・午後1時～午後3時:参加者のリユース品の持ち帰り(来場者アンケート、リユース自転車の抽選会など実施) ・午後3時～:残った製品の選別・仕分け、持ち帰り
効果測定・成果取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・残った製品の仕分け、市民団体・事業者への引渡し ・効果測定、来場者アンケートの集計等

「リユース宝市」で提供するリユース品は、「1. イベント当日に参加者が持参」、「2. 事前に収集」の2つに大別される。

「1. イベント当日に参加者が持参する方法」は、開催当日(午前11時～午後1時まで)会場入口付近に設置した受付において係員が市民から製品を受取り、係員が会場内に品目ごとに陳列した。

「2. 事前の収集」は、市有施設3カ所に事前に設置した「リユース品回収ボックス」にて拠点回収した製品、一般廃棄物収集運搬業者による未使用品等の提供、粗大ごみの集団回収及び戸別回収から良品をピックアップ、の3つの方法で準備を行った(による出品実績はなかった)。事前に収集したリユース品は、イベント前日に会場内にて品目別に陳列を行った。

リユース宝市は13時～15時に開催、会場内の混乱を防ぐため参加者の入場制限をしながら会場内に誘導し、品目別に陳列された製品の中から欲しいものを自由に持ち帰ってもらった。開始直後は多くの方に楽しんでいただく目的で持ち帰り品数を1人10点までと制限し、途中から品数の制限は解除した。

役割分担

前橋市は、「リユース宝市」の主催者として、開催に向けた企画・準備・当日運営・効果測定等を行う。市民団体「南橋リサイクルの会」はリユース品の仕分け整頓、当日の会場運営の支援を、群馬県は広報、スタッフ協力等を、前橋市一般廃棄物処理事業協同組合、前橋市再生資源事業協同組合はリユース品の提供、有限会社ハシモトはリユース宝市終了後の、残った衣類等の引き取り等を行う。

(2) 広報・PRの方法

ちらしは16,000枚作成し、自治会での回覧を実施、また、FMぐんまでのラジオCMの放映、地元密着フリークーポン紙「モテコ」での広告掲載、市ウェブサイトでの広報などを行った。

回覧 前橋市
ごみ減量課

リユース宝市は、
“使えるけれど使わない品物”を
皆さんから譲っていただき、
それを無料で提供するイベントです。

開催テーマは、
「私にとっては不用でも、誰かにとっては宝物」

掘り出し物を見つけに
ご家族お揃いでお越しください。
なお、早い者勝ちでお好きな物を
お持ち帰りいただくイベントですので
お早めのご来場よりお楽しみいただけます。

リユース自転車の抽選会もありますよ。

環境省モデル事業

100
リユースチャレンジ

リユース宝市

初開催



12月21日±

グリーンドーム前橋サブイベントエリア

午後1時～3時

※リユース自転車抽選会へご参加の方は、
午後1時30分までに会場へお越しください。

なるべく不用品を
お持ちになってのご来場を

皆さんから提供いただく品物がこのイベントの主役です。
衣服、日用品、おもちゃ、書籍…
ご家庭にある“使わない物”を当日会場にお持ちください。

早得！とにかくうれしい4つの特典

- 午前 11時～午後 1時までに不用品を提供してくれた方
- 1. 優先的に入場できます（整理券配布）
- 2. 指定袋 20 枚プレゼント
- 3. 先着 400 名様に粗品をプレゼント
- 4. リユース自転車の当選確率5倍！

ごうちん

今注目のリユース、 リサイクルよりもECO。

リユースは、“そのままの形”で再使用することをいいます。
一方でリサイクルは、新しい製品の原料にすることをいい、
運搬、選別、粉砕など多くのエネルギーやコストがかかります。
このため、よりECOなリユースが注目されています。
みなさんに、“リユースの楽しさを伝えたい”そんな気持ちで
込めてリユース宝市を開催します。

そうだ!!
ウチのアレ、
持って行こう



提供いただきたいもの

前橋市のご家庭から出たもので、ご自分で搬入できるものが対象です。
※ 食料品、薬化製品、医薬・介護機器はご遠慮ください。

 <p>●衣類 (洗濯済でまだ着られるもの 靴、かばん、帽子もOK)</p>	 <p>●ホビー用品 (アウトドア、スポーツ用品 ※スキー、スノーボード、自転車は不可)</p>	 <p>●生活雑貨 (未使用の贈答品・日用品 新品同様の小物雑貨など ※刃物は不可)</p>	 <p>●書籍 (絵本、漫画、一般書籍 ※雑誌は不可)</p>
 <p>●育児用品 (マタニティ用品、ベビー用品 ※チャイルドシートは不可)</p>	 <p>●おもちゃ (ぬいぐるみ、ブロック 1個から、知育玩具、ジャングルジムなど)</p>	<p>●家具 (カラーボックス程度の小型家具、小型ソファ、衣ケースなど汚れ破損が少なく使用できるもの ※大型家具は不可)</p>	

※提供いただいた品物が残った場合も、持ち帰りの必要はありません。
※このイベントは、品物をお持ちにならなくても入場でき、自由にお持ち帰りいただけます。
※イベント当日は、食用廃油と使用済小型家電の回収も行います。
廃油はペットボトルに入れてよく蓋を閉めてください。(燃焼切れの未使用油、ごみ油等も可)



※このチラシはリサイクルのみです。不要になった場合は「雑草紙」として扱ってください。

案内図

- 主催 前橋市
- 共催 群馬県
- 協賛 前橋市一般廃棄物処理事業協同組合
前橋市再生資源事業協同組合
- 協力 南橋リサイクルの会
- お問い合わせ 前橋市役所環境部ごみ減量課
☎027-898-6272

掘り出し物が見つかるかも？ 12月21日はリユース宝市へ

問い合わせは **ごみ減量課** ☎027-898-6272



「リユース宝市～私にとっては不用でも、誰かにとっては宝物」を開催。下図のような家庭で眠っている再使用可能な物（リユース品）を募集し、無料で提供します。また、リユース自転車の抽選会も行います。リユース品提供者だけでなく、どなたでも参加できますので、ぜひ、ご来場ください。
日時＝12月21日(土)午後1時～3時
会場＝グリーンドーム前橋

■リユース品を譲ってください

皆さんから提供していただくリユース品がこのイベントの主役です。各家庭にある再使用可能な

リユース品を当日会場へお持ちください。受付時間は午前11時から。午後1時までにお持ちいただいた人には特典もあります。

なお、市役所や前橋プラザ元気21、児童文化センターでは事前収集も行っています（市役所以外は育児用品とおもちゃのみ収集）。

■ボランティアスタッフを募集

リユース品の整理や分別など、当日のボランティアスタッフを募集します。

活動時間＝正午～午後4時

申し込み＝12月6日(金)までにごみ減量課へ



広報まえばし 平成25年11月15日号 4

広報まえばし・上（約14万部）

フリークーポン紙「モテコ」・下（19万2千部）

↑使えなくなるけど使わない物を譲って頂き、無料でご提供。なるべく品物をお持ちになつてご来場を♪

リユース宝市
2013年12月21日(土)
13:00～15:00
グリーンドーム前橋

雨天決行
入場料無料

あげて、もらって。楽しい無料交換会☆
掘り出し物は早い者勝ち
無料で参加・持ち帰りOK

■ご提供いただきたい物■
・衣類・靴・かばん・ホビー用品
・生活雑貨・書籍・育児用品
・おもちゃ・小型の家具
※電化製品、大型家具等は不可

注目イベント! ※午後1時30分までにお越しください
リユース自転車抽選会

①優先入場できる整理券配布
②指定袋20枚プレゼント
③先着400名様に粗品プレゼント
④リユース自転車の当選確率5倍
・11時～13時までに不用品ご提供の方
【有効期限】H25年12月21日のみ有効

リユース宝市 inグリーンドーム前橋
☎027-898-6272
園 前橋市岩神町1-2-1 園受付11:00～開始13:00～
園お問い合わせ先は前橋市役所ごみ減量課の番号です
不用品をお持ちでなくても無料で参加できます

駐車場有 イベント有 ファミリーOK カップルOK

（特徴）
読者層の90%が
10～30代である。



<会場入り口>



<リユース品持ち込み受付>



<開場を待つ参加者>



<陳列準備中の様子>



<開場前の陳列（キッズ洋服）>



<開場前の陳列（家具類）>



<開場前の陳列（書籍）>



<開場前の陳列（自転車（抽選））>



<リユース品を探す様子 >



<リユース品を探す様子 >



<会場の様子 >



<来場者アンケートの様子 >



<リユース自転車抽選会の様子 >



<特選品じゃんけん大会の様子 >



<終了後に残った製品の様子 >



<終了後に残った製品の様子 >

当日配布ちらし

本日は、ご来場頂きありがとうございました。

今後もしユースショップの活用や
お知り合いに譲るなど、
リユースへのご理解とご協力を
お願いいたします。

今注目のリユース、リサイクルよりも ECO。

リユースは、“そのままの形”で再使用することをいいます。一方でリサイクルは、新しい製品の原料にすることをいい、運搬、選別、粉碎など多くのエネルギーやコストがかかります。このため、より ECO なリユースが注目されています。



皆さんから預かっている大切な税金。

前橋市は、ごみの処理費用を削減して
身近な市民サービスに活用したいと
思っています。



G活チャレンジ! 100

本当のごみとは、再び使うこと（リユース）も、形を変えて使うこと（リサイクル）も出来ず、燃やすか埋め立てることしかできない物です。

みんなでこのことを意識してごみ減量活動に挑戦しましょう！（G活チャレンジ）

このチラシはリサイクルできますので、不用になった場合は「雑古紙」として出してください。

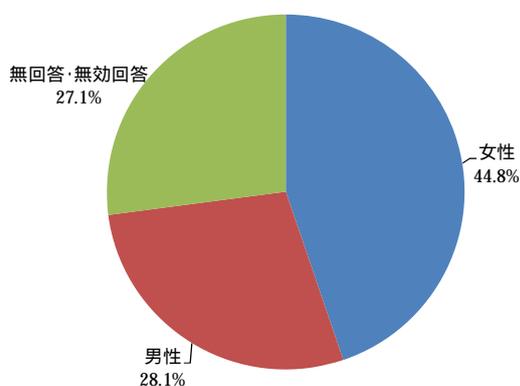
2. モデル事業の実施結果について

リユース宝市への参加者は約 800 人、うちリユース品を持参した人は約 600 人であり、持参者 1 人当たりの持込量は 2.9kg (推測) であった。来場者の属性としては、世代別で差異はあるものの、いずれの年代からの来場者がおり、乳児、幼児を連れての若年世代の来場も見受けられた。

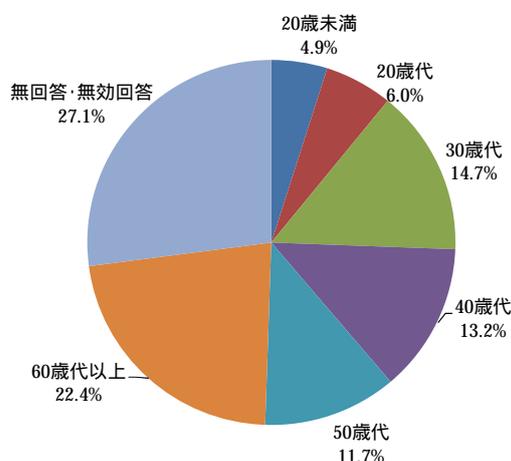
事前収集及び当日持ち込み合わせて 4,970kg (推計) のリユース品が会場内に陳列され、うち 3,915kg (推計) が持ち帰られ、リユースされたものは全体の 78.8% に相当すると推計される。

持ち帰りされずに残ったものは 1,055kg (全体の 21.2%) であり、衣類・ぬいぐるみ・かばん (800kg)、書籍 (170kg) はリサイクル事業者に、食器類とハンガーやイベント中に破損した品物などを不燃ごみ (85kg) として処理した。ごみとして処理した割合は全体の収集量のうち 1.7% であった。

図表 1 性別 (N=469)



図表 2 年齢 (N=469)



リユース品の内訳 (単位: kg)

	事前収集	当日持込	合計重量	残量	リユース率
本	400	220	620	170	72.6%
洋服 キッズ	400	220	620	140	77.4%
おもちゃ	180	100	280	10	96.4%
くつ	80	50	130	0	100.0%
帽子	40	20	60	0	100.0%
かばん	100	50	150	10	93.3%
洋服 レディース	1,000	550	1,550	550	64.5%
洋服 メンズ	300	160	460	90	80.4%
ホビー用品	130	70	200	0	100.0%
家具	100	60	160	20	87.5%
日用雑貨	220	120	340	15	95.6%
食器類	260	140	400	50	87.5%
合計	3,210	1,760	4,970	1,055	78.8%

品目別に一部分を計量し、全体量を推計して重量を算出した。

残量は、全量を計量した。



<リユース品の提供量の様子>



<リユース品の残量の様子>

3. モデル事業の達成度・来場者の満足度について

イベントの目標として設定した値をいずれの項目も達成した。

来場者の満足度について、「リユース宝市」を利用した際の満足度をスコア化して整理する。

「全体について」は、1.01 ポイントとなっており、全体的にやや満足していただいたと推察される。一部指摘された会場・運営・マネジメントの方法などについて改善を行うことで、これら満足度も向上すると考えられる。

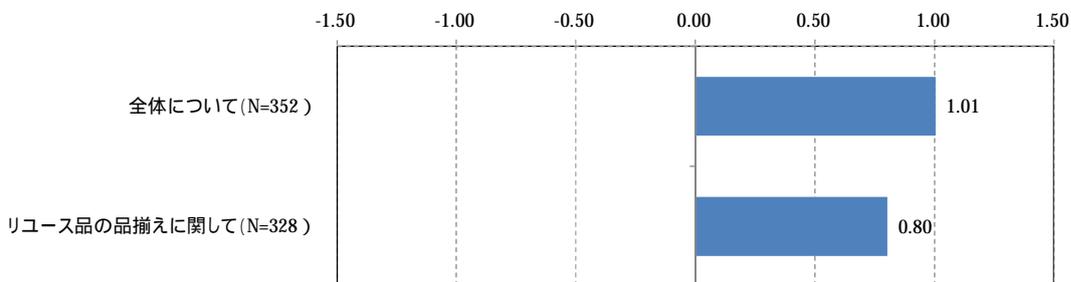
また、「リユース品の品ぞろえ」については、0.80 ポイントとなっている。自由回答をみると、全体的な品数や品揃えは悪くはないが、会場の混雑、陳列の方法や、特定の製品の人気があって殺到したことなどにより、やや評価が低くなったものと考えられる。

今後の継続については、「継続してほしい」と回答した人が、73.6% (345 件) と 7 割以上となっている。一方で、継続の必要はないと回答した人は、わずか 0.4% (2 件) であり、ほとんどの人が継続を期待しているものといえる。

モデル事業の達成度

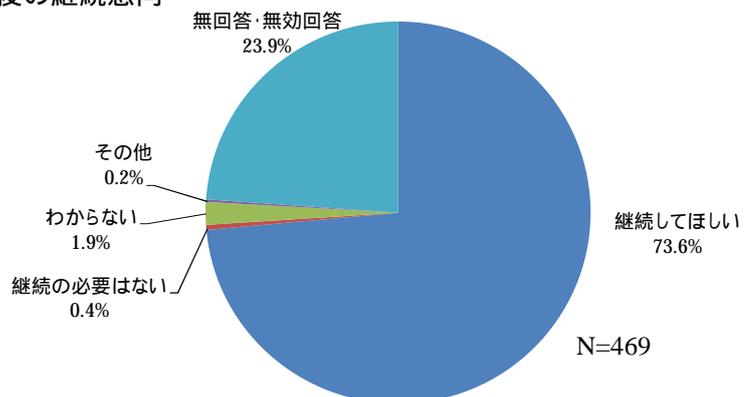
項目	当初目標値	実績	評価
来場者数	500 名	約 800 名	達成
リユース率	60%	78.8%	達成
アンケート回答数	300 件	469 件	達成

図表 3 「リユース宝市」の満足度



満足を 2 点、やや満足を 1 点、普通を 0 点、やや不満を - 1 点、不満を - 2 点とし点数化、回答数で除することでスコア化する。

図表 4 「リユース宝市」の今後の継続意向



4. モデル事業の事業採算性について

リユース宝市に要した差引経費は概算で 1,980,540 円であった。今回リユース又はリサイクルされた 4,885kg をごみとして処理した場合に係る費用は 188,072 円(計算上の数値:処理経費 38.5 円/kg より算出)にとどまった。その他の効果を数値で算出することは困難であるが、啓発ちらしや広報紙によるイベント実施の啓発にあたり広く「リユース」という言葉を普及でき多くの市民に不用品の提供をいただけたこと、また不用品が新しい持ち主の手に渡る過程の体験を提供できたことなどは、今後の環境意識、リユース意識の醸成に繋がるものであったといえる。

「リユース宝市」に要した経費等(単位:円)

支出合計	1,996,385		
モデル事業補助	988,385		
広報費	222,810	(1) 啓発ちらし(16,000枚) (2) フリークーポン紙広告掲載(1回、12月号) (3) ラジオCM広告(1日1回15秒放送×10回)	11 2,560 47 ,250 63,000
事業費	765,575	(1) 拠点回収箱購入(9個) (2) ブルーシート(16枚) (3) のぼり旗(30本) (4) 屋外用立看板(2台) (5) 来場記念品(液体薬用石鹸400個等) (6) リユース自転車整備費用(20台) (7) 会場借上料	65,205 78,960 119,700 88,200 115,760 100,000 197,750
モデル事業対象外	1,008,000		
人件費(概算)	988,000	(1) 事前準備等(延べ100時間) (2) 前日準備、当日従事(延べ280時間)	26 0,000 728,000
その他諸経費	20,000	(1) 車両燃料費、消耗品等	20,000
歳入合計	15,845		
古着等売却益	14,400	洋服、ぬいぐるみ、かばん(800kg)	
古紙売却益	1,445	書籍(170kg)	
差引	1,980,540		

【アンケートの自由回答より環境意識の醸成に関する回答例】

- ・まだ使えるものを有効に回せて大変有意義だと思う。(3名)
- ・リユースをするのはとても良いことだと思いました。
- ・捨てればゴミだけど、他の人から見ると宝物にもなると感じました!!
- ・はじめてでしたが、子どもにもリサイクルの意味など教えられて良いと思います。
- ・大事にしていたぬいぐるみを持参した。新たにかわいがっていただけと思うと嬉しく思う。
- ・捨てられないものがあったが、必要な人にもらってもらえると良いと思う
- ・来年もあるなら、リユースできる物をおいておきたいです。
- ・こんなに盛大だとは思いませんでした。来年は商品も提供したいと思っています。
- ・今度は持ってこようと思います
- ・新品同様に未使用のものしか出せないものと思っていましたが、使いこんだものも多くみられ、持っていく方も多くいるようだったので次回はもっと出せるものがありそうです。

5. モデル事業の成果（まとめ）

（1）ごみの減量

持ち込まれたリユース品のほとんどが普段はごみとして排出されているものであるため、新しい持ち主の手に渡ったことで、ごみの排出抑制につながった。

（2）ごみ減量意識の高揚

リユース宝市を機会にこれまでリユースを考えていなかった多くの市民が、リユースを理解するきっかけになった。

（3）若年世代への啓発

前橋市では、消費が多くもっともごみを出す若年世代への普及啓発を強化している。リユース宝市では、従来型の環境イベントや環境講話では来場が見込めない方々が多く来場されリユースへの理解を深める良い啓発機会であった。

6. 今後の取り組み方針

（1）本事業は来場者の継続要望もあることから、前橋市として来年度も継続して実施することを予定している。

（2）単なる一過性のお得なイベントとしてではなく、規模は小さくなくても地域に根ざした活動になるよう広め、市民団体による自主的な運営等に発展させたい。

（3）市民にまずリデュース、リユースを考えていただき、リサイクルできないものだけがごみであると意識していただけるような啓発を進めたい。

前橋市「リユース宝市」来場者アンケート（集計結果）

1. アンケート調査の概要

1.1 調査目的

平成 25 年 12 月 21 日（土）に開催した「リユース宝市」に参加した方を対象に、参加目的、利用内容、イベントの認知機会、利用した感想などを把握し、事業成果・効果の把握および事業推進時の今後の課題・改善点を明らかにすることを目的とする。

1.2 調査対象・調査方法

「リユース宝市」に参加した市民を対象に実施した。会場であるグリーンドーム前橋サブイベントエリアの出入り口付近において、係員よりアンケート調査票を手渡しし、その場で回答していただき、回収を行った。

アンケート調査票の配布・回収は「リユース宝市」の開催期間中、平成 25 年 12 月 21 日（土）午後 1 時～午後 3 時とした。

回収したアンケート調査票は 469 件となった。

なお、アンケートは A4 サイズの用紙で 2 ページ（裏表）であったが、回答の 1/4 程度（112 人）が裏面を回答しないまま回収されている。回収時に、係員より裏面も回答をお願いしていたが、短時間に多くの方が回答しており、十分な周知が困難であったことも原因の 1 つである。

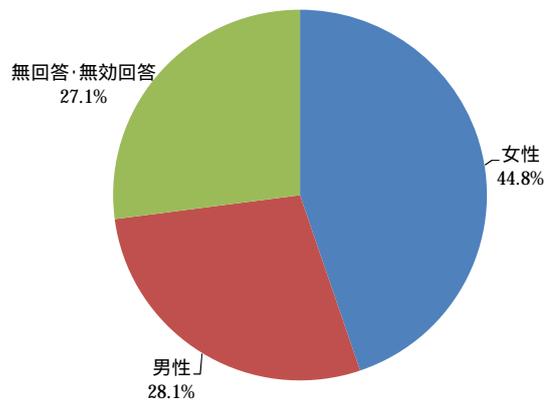
2. 「リユース宝市」来場者アンケート調査結果

2.1 回答者の属性

(1) 性別

アンケート回答者の性別について、「女性」が 44.8%(210 件)、「男性」が 28.1%(132 件)となった。女性の方が多くなっている。

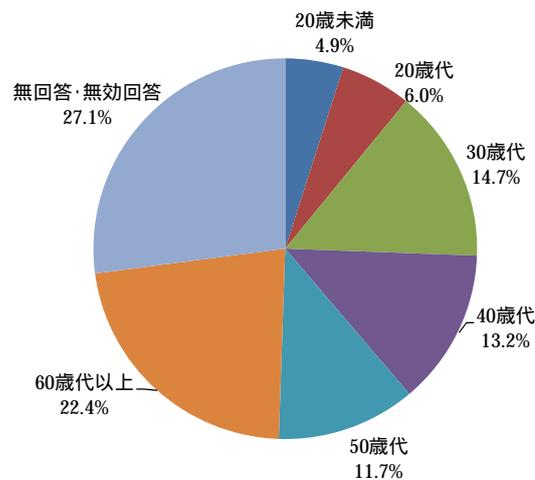
図表 5 性別 (N=469)



(2) 年齢

アンケート回答者の年齢について、最も多かったのは「60 歳代以上」で 22.4%(105 件)、次いで「30 歳代」が 14.7% (69 件)、「40 歳代」が 13.2%(62 件)と続いた。世代別で差異はあるものの、いずれの年代でも利用されていることが伺える。

図表 6 年齢 (N=469)

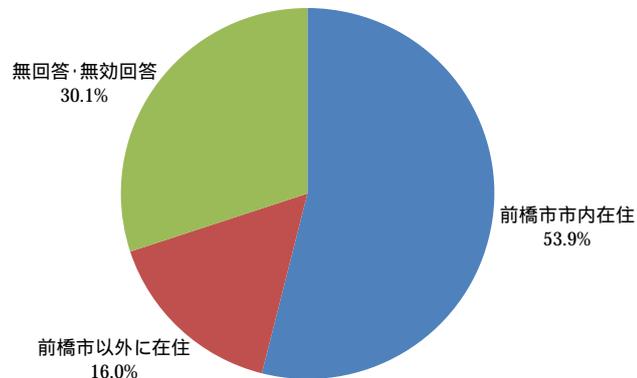


(3) 住所

アンケート回答者の住所については「前橋市市内在住」が 53.9% (253 件)、「前橋市外に在

住」が16.0%（75件）となっている。

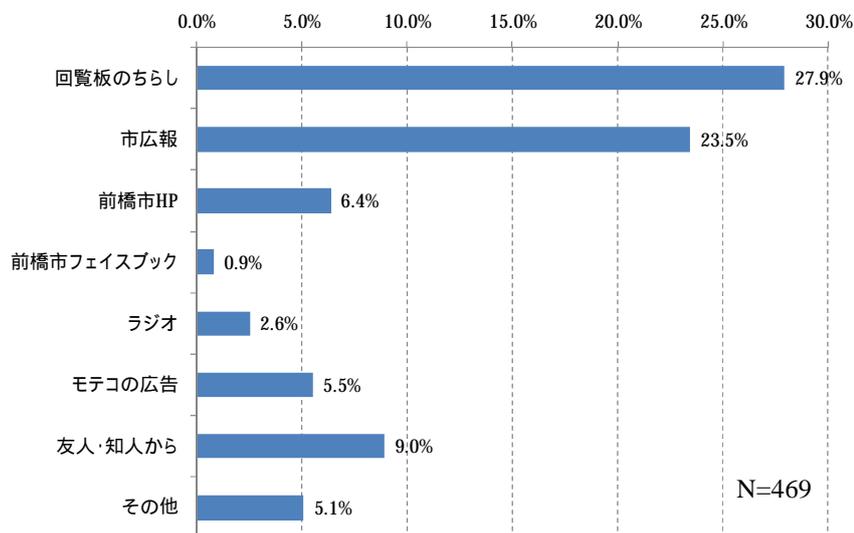
図表 7 住所（N=469）



(4) 来場したきっかけ

来場したきっかけについて、最も多かったのは「回覧板のちらし」が27.9%（131件）、次いで「市広報」が23.5%（110件）となっている。また、「友人・知人から」も、9.0%（42件）となっており、口コミによる回答も1割程度みられた。

図表 8 来場したきっかけ



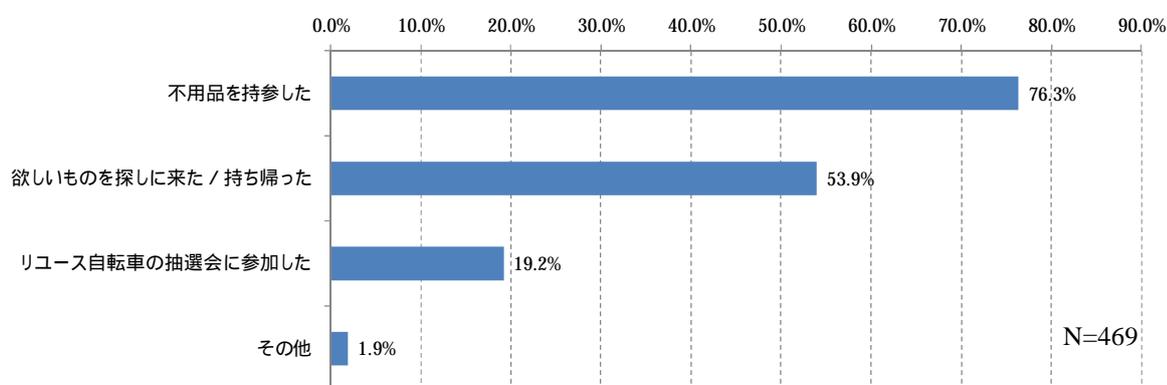
2.2 「リユース宝市」の利用状況

2.2.1 リユース宝市での参加内容

リユース宝市での参加としては、「不用品を持参した」との回答が、76.3%（358件）となっており7割以上の方が不用品の持参をしていただいている。また、「欲しいものを探しに来た/持ち帰った」が53.9%（253件）となっている。両者を足し合わせると100%以上となっており、不用品を持参しつつ、別の自分の必要なものを持ち帰る人も相当数いると思われる。

また、「リユース自転車の抽選会の参加」と回答した人も、2割程度おり、「自転車」に対するニーズは比較的高いといえる。

図表 9 参加内容



2.2.2 持ち込んだ製品の概要

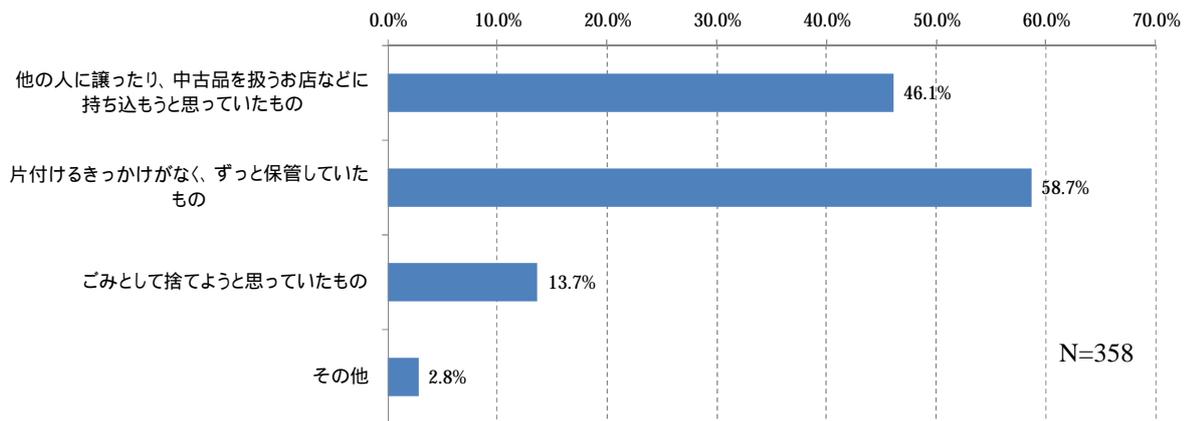
「不用品を持参した」と回答した人を対象に、その製品について尋ねたところ、「片付けるきっかけがなく、ずっと保管していたもの」との回答が 58.7%（210 件）と最も多く、自宅で退蔵していた不用品が多く持ち込まれたことが推察される。

また、「他の人に譲ったり、中古品を扱うお店などに持ち込もうと思っていたもの」が 46.1%（165 件）となっている。また、「ごみとして捨てようと思っていたもの」と回答した人も、1 割強みられた。

「リユース宝市」の機会がなければ、自宅で利用されず退蔵され続け、最終的には廃棄されてしまうと思われる製品や、ごみとして廃棄しようとしていたものが相当数持ち込まれており、リユースの促進を通じて、ごみの排出削減にも繋がった可能性がある。

自宅で有用に活用されていなかった製品がこの機会にリユースされたことが、「よかった」「有意義である」といった高評価につながっていることが推測される。

図表 10 持ち込んだ製品の概要



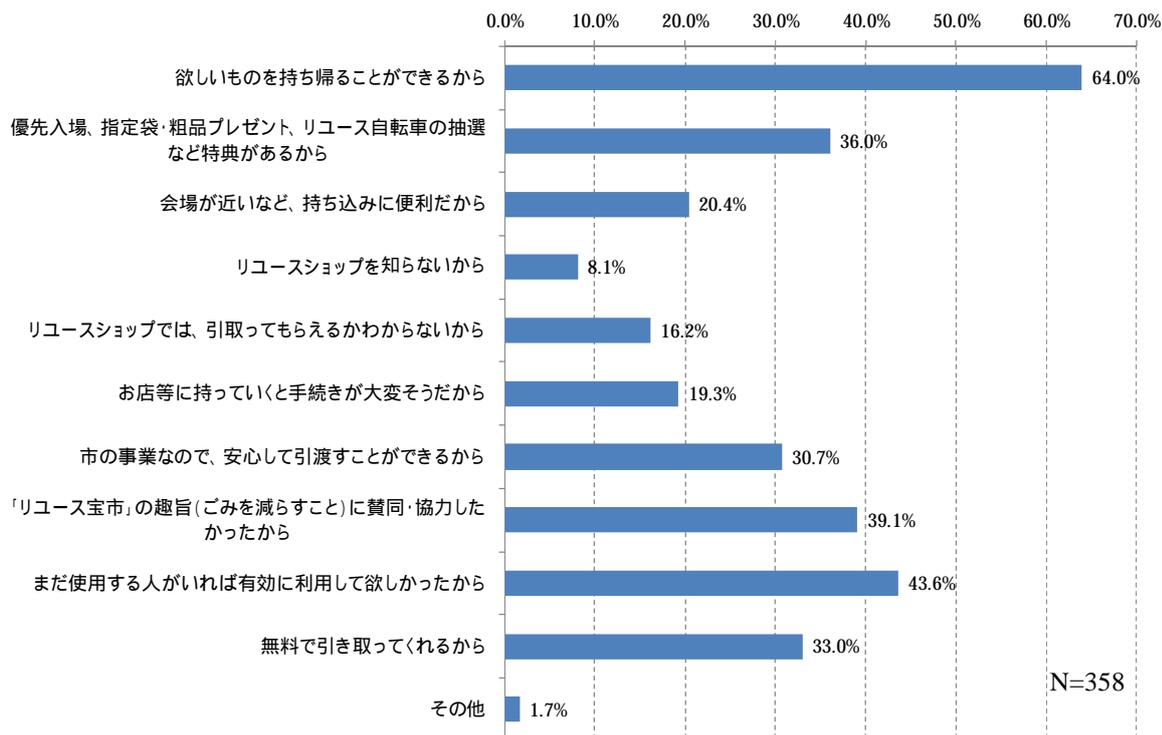
2.2.3 リユースショップではなく「リユース宝市」への持参した理由

リユースショップではなく「リユース宝市」への持参した理由としては、「欲しいものを持ち帰ることができるから」と回答した人が64.0%（229件）と最も多い。欲しいものを持ち帰ることができることが、不用品の持ち込み促進にも繋がったことが推察される。

また、自由回答にもあるように、リユースショップでは必ずしもすべてを引き取ってもらえるわけでもなく、引き取り価格が予想以上に安い、商品にならないものは処分されるといったこともある。そうした背景からか「まだ使用する人がいれば有効に利用してほしかったから」という回答が43.6%（156件）と次いで多くなっており、リユースショップのように選別されず欲しい人がいれば利用してもらえる、無駄にならないといった意識がリユース宝市への持ち込みにつながっているといえる。

また、次いで多いのが「「リユース宝市」の趣旨（ごみを減らすこと）に賛同・協力したかったから」ともなっており、これらの回答状況をみると、自分の損得に加え、開催趣旨に賛同といった精神的な要素も影響していることがうかがえる。

図表 11 リユースショップではなく「リユース宝市」に持ち込んだ理由



【自由回答より】

- ・リサイクルに持って行っても10円20円50円単位でしかとってくれない。利用してくれる人に使ってもらった方が良いと思う。
- ・リサイクルshopに持って行くより必要な人に使ってもらえるので、これからも続けてもらいたいと思います。また、必要なものも頂けました。
- ・リサイクルショップにも品物を持って行った事があるが、ガソリン代にもならなかった。ここだと気に入った物をいくつか持ち帰れるのでお得感もある。お店に持って行くより気持ち的にも良い。

2.2.4 品目別の持ち込み製品の概要

(1) 品目別の持ち込みされた製品の数量

アンケートより把握される品目別の持ち込み人数、数量などを図表 12、図表 13に整理する。

アンケート回答者(469人)の品目別の持ち込み状況を整理すると、「衣類・靴・かばん・帽子」を持ち込んだ人が最も多く232人、1人あたりの平均個数は7.1個/人、次いで「生活雑貨」がそれぞれ148人、5.1個/人、「おもちゃ」がそれぞれ72人、5.7個/人となっている(図表 12)。

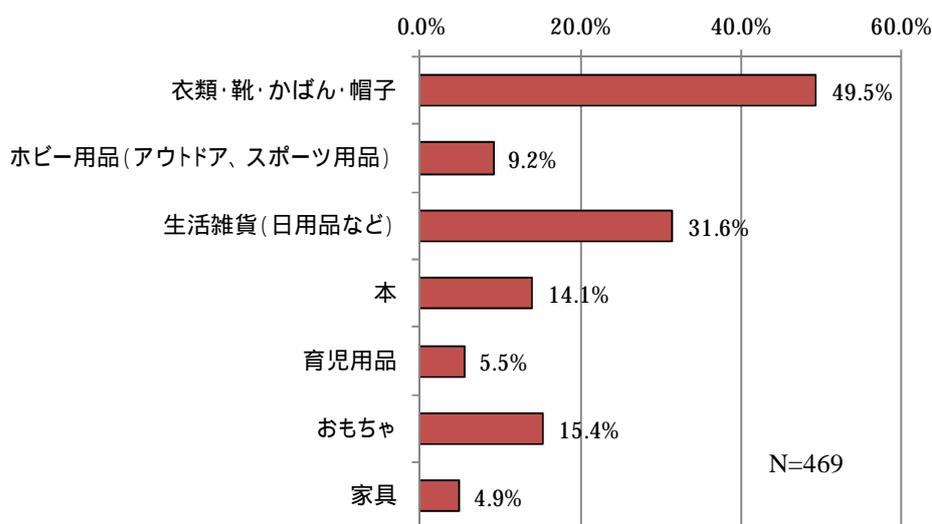
アンケート回答者数に占めるある品目を持ち込んだ人の割合を出現率とし、品目別に比較すると、「衣類・靴・かばん・帽子」を持ち込んだ人の出現率が49.5%と最も多く、次いで「生活雑貨」が31.6%、「おもちゃ」が15.4%、「本」が14.1%、「ホビー用品」が9.2%、「育児用品」が5.5%、「家具」が4.9%と続く(図表 13)。

図表 12 品目別の持ち込みされた製品の数量 (N=469)

	衣類・靴・かばん・帽子	ホビー用品 (アウトドア、 スポーツ用品)	生活雑貨(日用品など)	本	育児用品	おもちゃ	家具
持ち込み人数(人)	232	43	148	66	26	72	23
持ち込み数量(個、冊)	1649	186	753	432	138	412	40
平均個数(個、冊/人)	7.1	4.3	5.1	6.5	5.3	5.7	1.7
出現率()	49.5%	9.2%	31.6%	14.1%	5.5%	15.4%	4.9%

出現率=持ち帰り人数/アンケート回答者数(469人)

図表 13 品目別の持ち込み人数の割合(出現率)

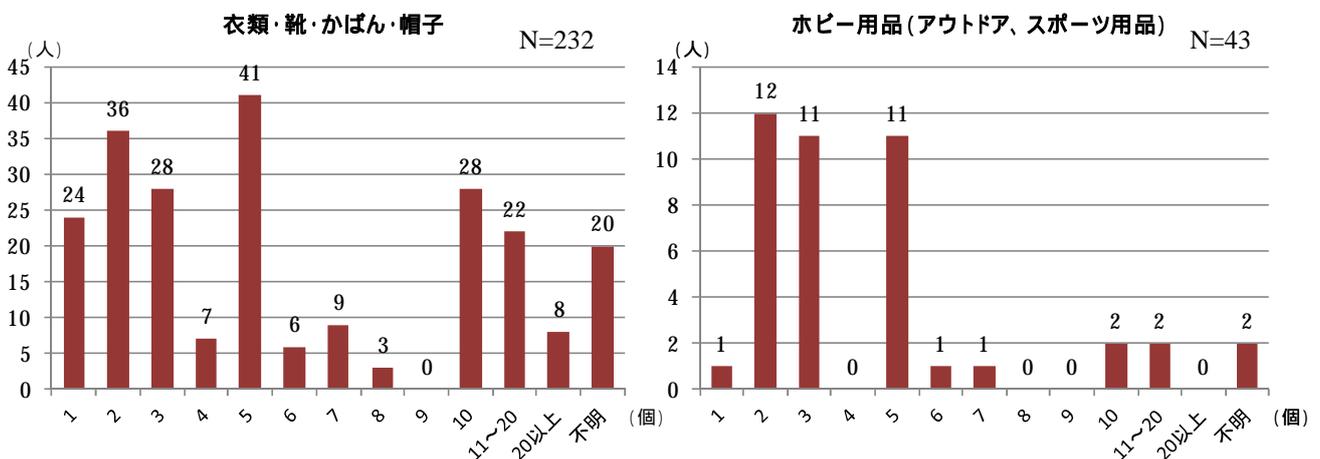


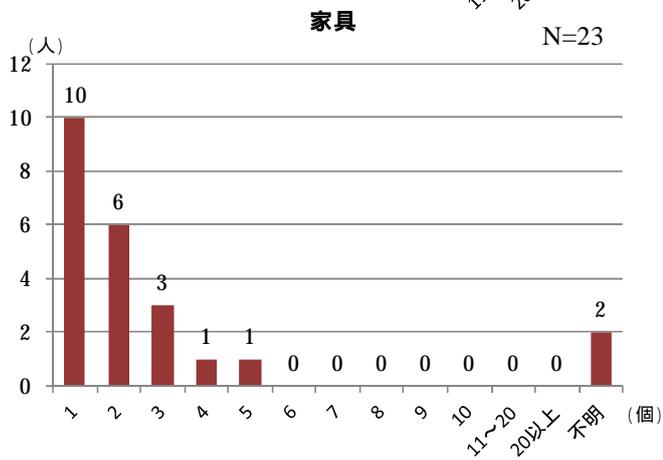
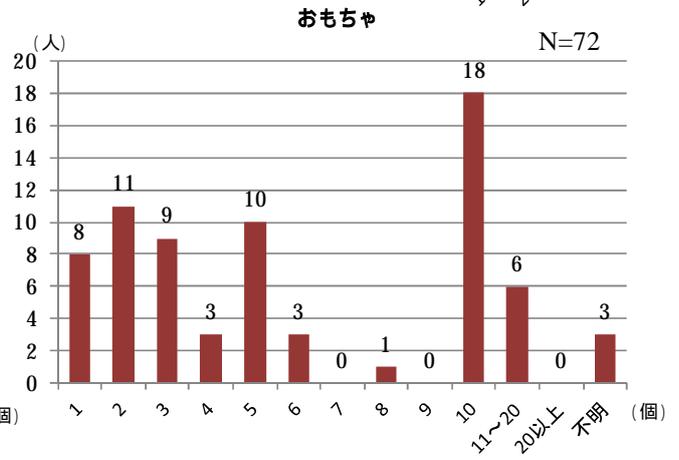
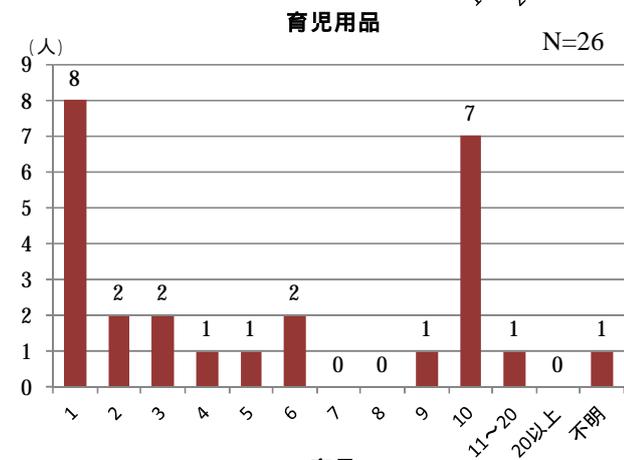
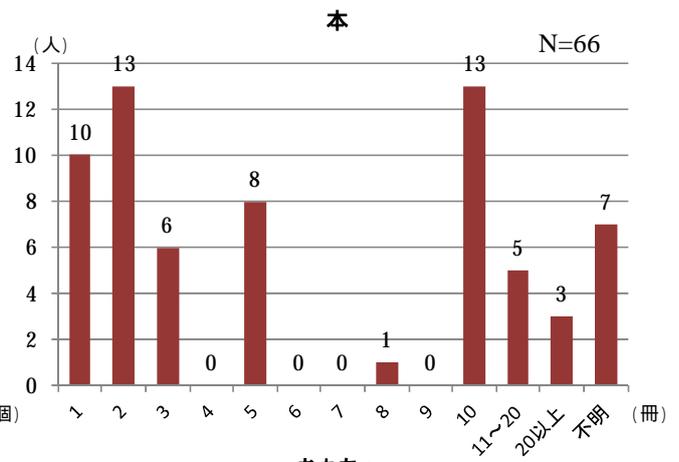
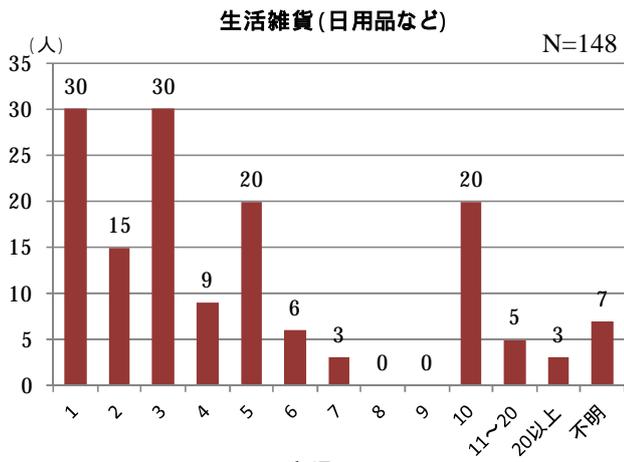
(2) 1人あたりの品目別の持ち込み数量

持ち込みされた方の品目別の持ち込み数量について、図表 14に整理する。品目ごとの特徴を整理する。

- ・「衣類・靴・かばん・帽子」は、「5個」との回答が最も多く41人、次いで「2個」(36人)、「3個」「10個」がそれぞれ28人と続く。全体の傾向としては、「1~5個」、「10~20個」といった範囲で回答が多い。(平均は7.1個/人)
- ・「ホビー用品」は、「2個」との回答が最も多く12人、次いで「3個」「5個」がそれぞれ11人と続く。全体の傾向としては「1~5個」の回答が多い。(平均は4.3個/人)
- ・「生活雑貨」は、「1個」「3個」とい回答が最も多くそれぞれ30人、次いで「5個」「10個」との回答が28人となっている。全体の傾向としては「1~5個」が多く、「10個」との回答も一定数存在する。(平均は5.1個/人)
- ・「本」は、「2冊」「10冊」との回答が最も多く13人、次いで「1冊」が10人となっている。全体の傾向としては「1~3冊」の少量を持参された方と、「10冊以上」とまとまって持参された方に大きく分かれる。(平均は6.5冊/人)
- ・「育児用品」は、「1個」との回答が最も多く8人、次いで「10個」が7人となっている。全体の傾向としては少量を持参された方と、「10個以上」とまとまって持参された方に大きく分かれる。(平均個数は5.3個/人)
- ・「おもちゃ」は、「10個」との回答が最も多く18人、次いで「2個」が11人、「5個」が10人、「3個」が9人、「1個」が8人と続く。全体の傾向としては「1~5個」との回答が多いが、「10個」との回答も一定数存在する。(平均は5.7個/人)
- ・「家具」は、「1個」との回答が最も多く10人、次いで「2個」が6人、「3個」が3人と続く。6個以上持参された方は確認されず、少数を持参された方が多い。(平均は1.7個/人)

図表 14 品目別の持ち込み数量(人数)





2.2.5 品目別の持ち帰り製品の概要

(1) 品目別の持ち帰りされた製品の数量

アンケートより把握される品目別の持ち帰り人数、数量などを図表 15、図表 16に整理する。

アンケート回答者（当該設問無回答者 112 人を除く 357 人）の品目別の持ち帰り状況を整理すると、「衣類・靴・かばん・帽子」を持ち込んだ人が最も多く 150 人、1 人あたりの平均個数は 4.6 個/人、次いで「生活雑貨」がそれぞれ 136 人、4.1 個/人、「本」がそれぞれ 84 人、4.5 冊/人となっている（図表 15）

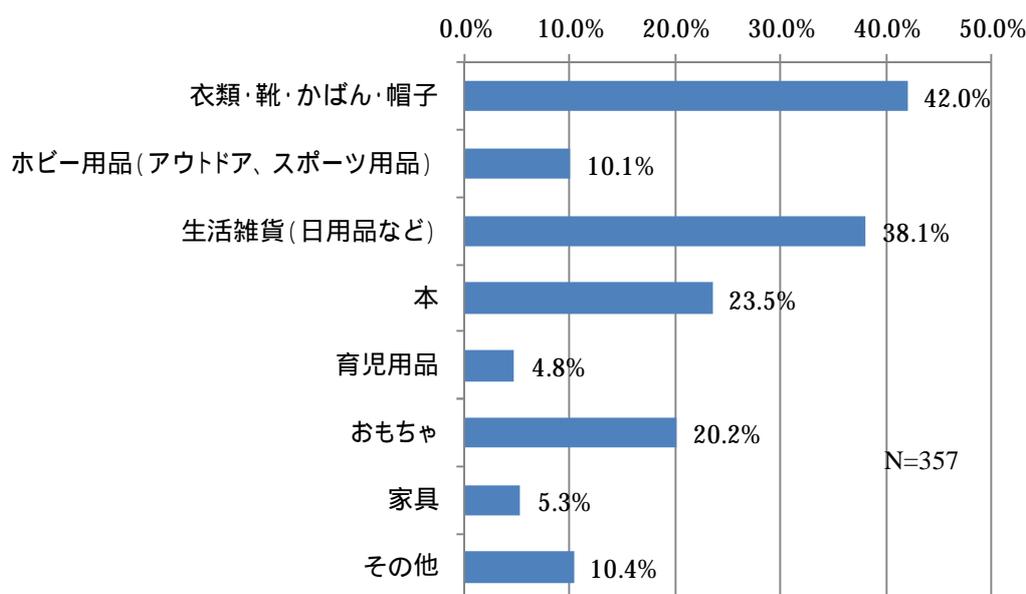
アンケート回答者数に占めるある品目を持ち帰った人の割合を出現率とし、品目別に比較すると、「衣類・靴・かばん・帽子」を持ち込んだ人の出現率が 42.0%と最も多く、次いで「生活雑貨」が 38.1%、「本」が 23.5%、「おもちゃ」が 20.2%、「その他」が 10.4%、「ホビー用品」が 10.1%、「育児用品」が 4.8%、「家具」が 5.3%と続く（図表 16）

図表 15 品目別の持ち帰りされた製品の数量（N=357）

	衣類・靴・かばん・帽子	ホビー用品 (アウトドア、スポーツ用品)	生活雑貨(日用品など)	本	育児用品	おもちゃ	家具	その他
持ち帰り人数(人)	150	36	136	84	17	72	19	37
持ち帰り数量(個、冊)	692	79	557	376	49	277	39	130
平均個数(個、冊/人)	4.6	2.2	4.1	4.5	2.9	3.8	2.1	3.5
出現率()	32.0%	7.7%	29.0%	17.9%	3.6%	15.4%	4.1%	7.9%

出現率=持ち帰り人数/アンケート回答者数(357人)
アンケート回答者数について、裏面無回答者(112人)を除く

図表 16 品目別の持ち帰り人数の割合（出現率）

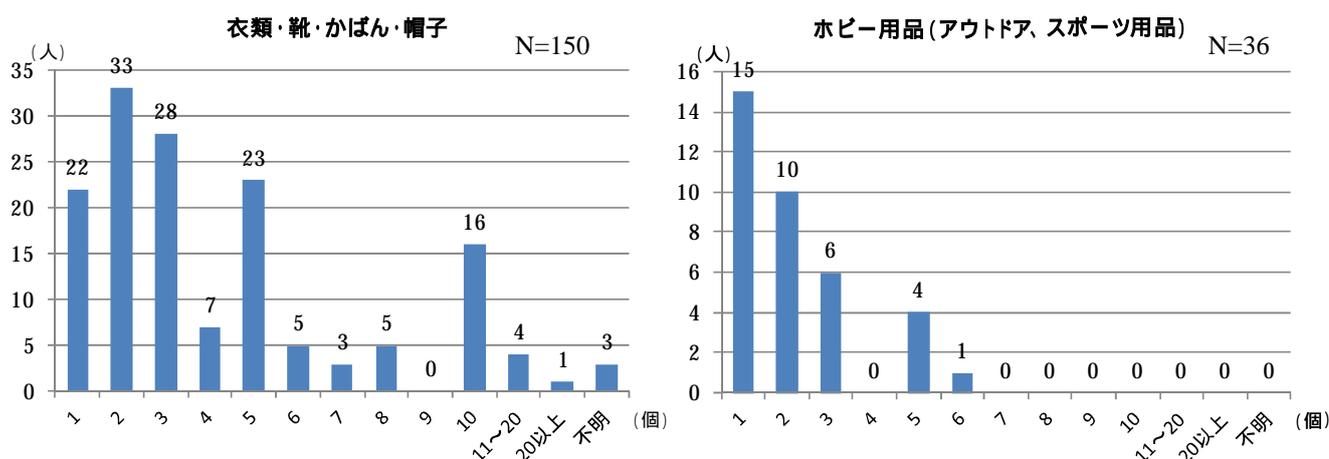


(2) 1人あたりの品目別の持ち帰り数量

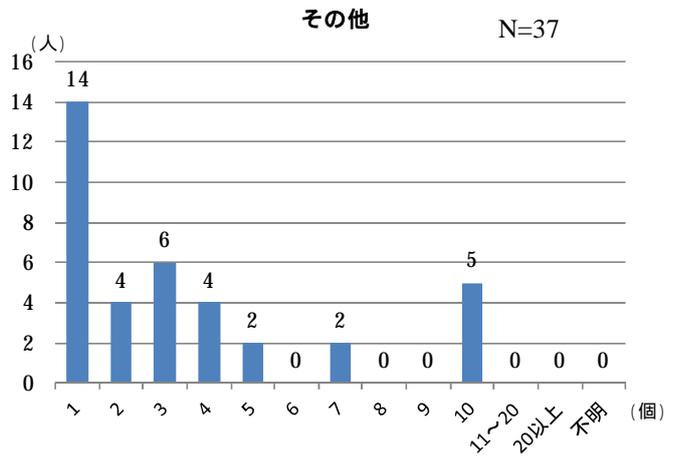
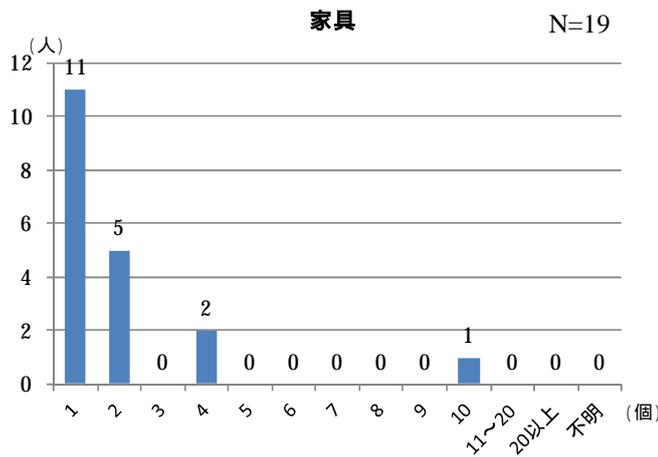
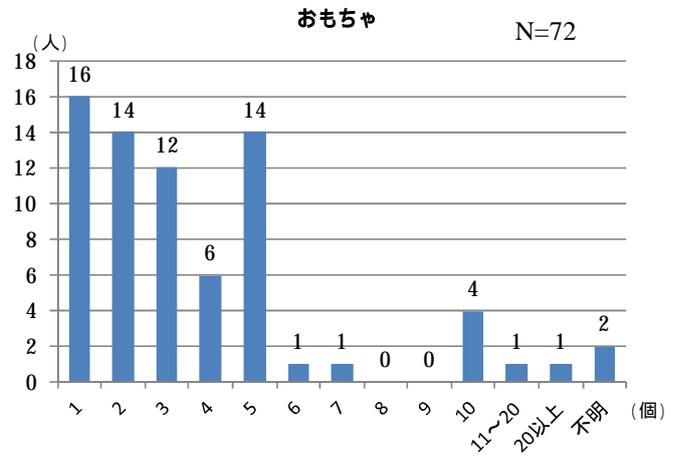
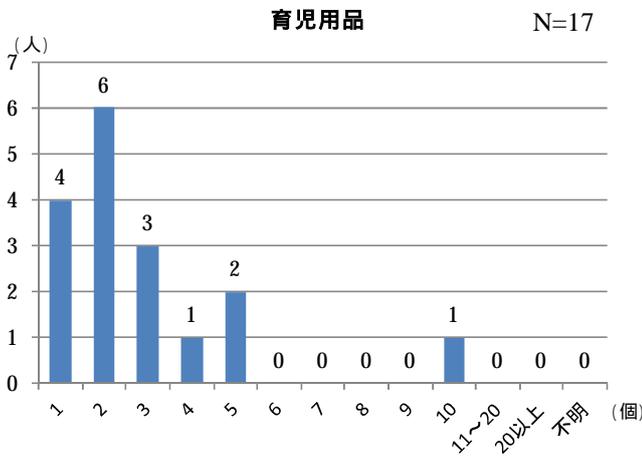
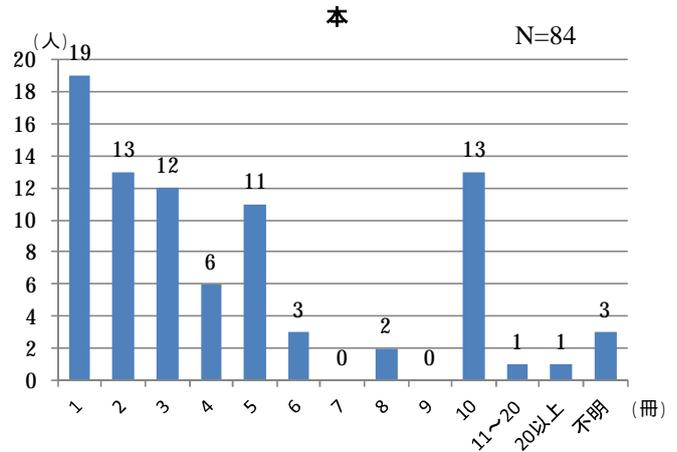
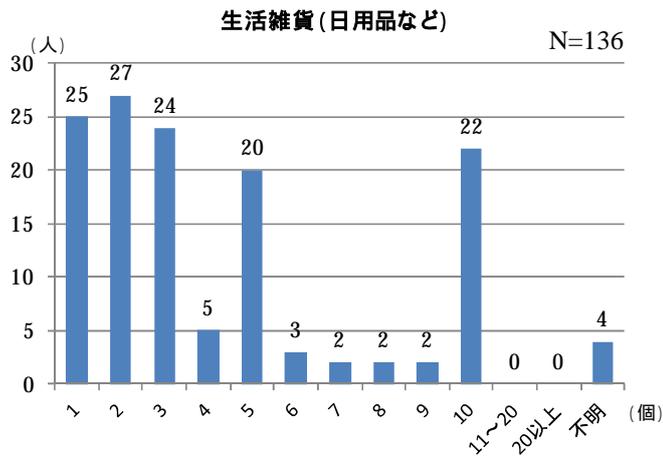
持ち込みされた方の品目別の持ち帰り数量について、図表 17に整理する。品目ごとの特徴を整理する。

- ・「衣類・靴・かばん・帽子」は、「5個」との持ち帰った人が最も多く33人、次いで「3個」が28人、「5個」が23人と続く。全体の傾向としては、「1~5個」、「10~20個」といった範囲で回答が多い。(平均は4.6個/人)
- ・「ホビー用品」は、「1個」との回答が最も多く15人、次いで「2個」10人と続く。「1~3個」の回答が多い。(平均は2.2個/人)
- ・「生活雑貨」は、「2個」という回答が最も多く27人、次いで「1個」が25人、「3個」が24人、「10個」が22人となっている。全体の傾向としては「1~5個」が多く、「10個」との回答も一定数存在する。(平均は4.1個/人)
- ・「本」は、「1冊」との回答が最も多く19人、次いで「2冊」「10冊」がそれぞれ13人となっている。全体の傾向としては「1~5冊」の少量を持ち帰った方と、「10冊以上」とまとまって持ち帰った方に大きく分かれる。(平均は4.5冊/人)
- ・「育児用品」は、「2個」との回答が最も多く6人、次いで「1個」が4人となっている。全体の傾向としては「1~3個」の回答が多い。(平均個数は2.9個/人)
- ・「おもちゃ」は、「1個」との回答が最も多く16人、次いで「2個」「5個」が14人、「3個」が12人と続く。全体の傾向としては「1~5個」との回答が多い。(平均は3.8個/人)
- ・「家具」は、「1個」との回答が最も多く10人、次いで「2個」が5人続く。「1~2個」程度の少数を持ち帰った方が多い。(平均は2.1個/人)
- ・「その他」は、「1個」との回答が最も多く14人、次いで「3個」が6人、「10個」が5人と続く。

図表 17 品目別の持ち込み数量(人数)



前橋市リユースモデル事業報告書



2.3 「リユース宝市」に対する満足度、今後の意向

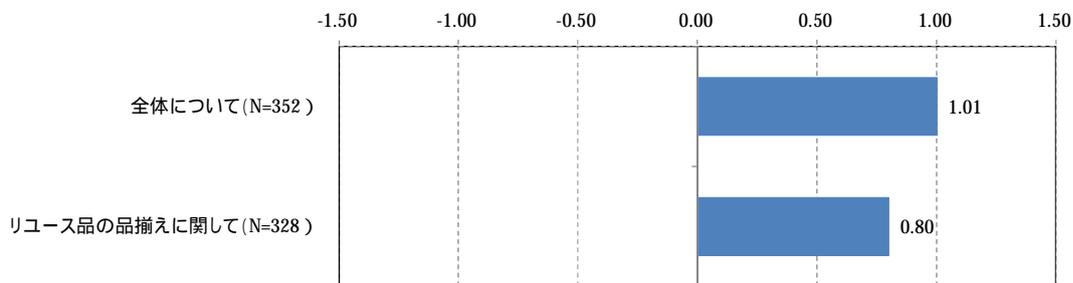
2.3.1 参加した満足度

「リユース宝市」を利用した際の満足度をスコア化して整理する。

「全体について」は、1.01ポイントとなっており、全体的にやや満足していただいたと推察される。前述にもあるように「リユース宝市」の趣旨については賛同されているため、自由回答等で指摘されている会場・運営・マネジメントの方法などについて改善を行うことで、これら満足度も向上すると考えられる。

また、「リユース品の品ぞろえ」については、0.80ポイントとなっている。自由回答をみると、全体的な品数や品揃えは悪くはないが、会場の混雑、陳列の問題や、特定の製品の人気があって殺到したことなどにより、やや評価が低くなったものと考えられる。

図表 18 「リユース宝市」の満足度



満足を2点、やや満足を1点、普通を0点、やや不満を-1点、不満を-2点とし点数化、回答数で除することでスコア化する。

【自由回答より】

(会場の混雑によるもの)

- ・人が多くてよく見れなかった。

(陳列の悪さによるもの)

- ・どこに何があるかわからない

- ・部屋ごとに洋服、おもちゃなど分かれているとごったがえさなくてよい。

- ・展示品、特に衣類が平積みで見つけづらい(品物サイズ等見るのに大変、少し分けてほしい等)(4名)

- ・品物がとりづらい

(特定な品に対する数や種類の少なさによるもの)

- ・大型家具、自動車部品等もあれば良い

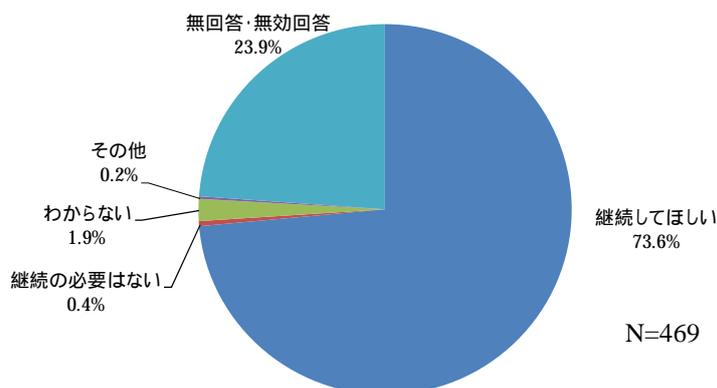
- ・子供が生まれるのでベビー用品を探しにきましたがもう少し品揃え良いといいと思いました。特にベビー用品は高価な割には一時的にしか使わない物が多いと思うので、もっとPRしてもらって来年に期待したいと思います。

- ・本が少なかった。

2.3.2 今後の継続について

今後の継続については、「継続してほしい」と回答した人が、73.6%（345件）と7割以上となっている。一方で、継続の必要はないと回答した人は、わずか0.4%（2件）であり、ほとんどの人が継続を期待しているものといえる。

図表 19 「リユース宝市」の今後の継続意向



2.4 「リユース宝市」に対する自由回答

アンケートの自由回答について、意見の趣旨ごとに分類して以下に整理する。

リユース宝市の仕組みに対して

全体評価として良かった（25名）

例）

- ・参加して良かった
- ・大変良かったと思います。
- ・初めてですのでとてもよいリユース宝市だと思った。

イベントの趣旨に賛同

- ・良い試み、素晴らしい試みだと思う。（6名）
- ・まだ使えるものを有効に回せて大変有意義だと思う。（3名）
- ・リユースをするのはとても良いことだと思いました。
- ・使えるものを有効に使うのはよい
- ・初参加ですが、いいイベントだと思います
- ・交換の発想が面白かった
- ・再利用の趣旨に賛同。
- ・楽しかった。リサイクルすればゴミが減る。
- ・捨てればゴミだけど、他の人から見ると宝物にもなると感じました!!
- ・はじめてでしたが、子どもにもリサイクルの意味など教えられて良いと思います。
- ・エコな催しで良いと思う。ほしい人、いらぬ人の利害があっているから。
- ・新品同様か未使用のものしか出せないものと思っていましたが、使いこんだものも多くみられ、持っていく方も多くいるようだったので次回はもっと出せるものがありそうです。家で眠っているものがムダにならず大変良いイベントだと思いました。

必要な人にもらってもらえるのがよい

- ・捨てられないものがあつたが、必要な人にもらってもらえると良いと思う
- ・自分にとっては不要なものであつても、他の人には必要ということもあるかも知れません。ごみとして処理されてしまうのはもったいない。

- ・自分の不要なものでも他の方に使ってもらえるならありがたいし、その逆も助かるので、
- ・リサイクルが好きだから
- ・自分が不要でも人が必要なものがあれば、こういう機会は良いと思う。
- ・誰かにつかってほしかったので、ありがたいです。でも、持ちきれないものがまだ家に沢山あります。
- ・わが家の不用品を利用してくれる方がいたら、うれしい。
- ・捨てるにはもったいないと思っていた服を誰かに有効活用してもらえるのはとても嬉しいです。また次回があれば参加します。
- ・大事にしていたぬいぐるみを持参しました。新たにかわいがっていただけると嬉しく思います。
- ・うれしいし、ありがたい。

リサイクルショップ利用よりお得、有意義である

- ・リサイクルに持って行っても 10 円 20 円 50 円単位でしかとってくれない。利用してくれる人に使ってもらった方が良いと思う。
- ・リサイクル shop に持って行くより必要な人に使ってもらえるので、これからも続けてもらいたいと思います。また、必要なものも頂けました。
- ・リサイクルショップにも品物を持って行った事があるが、ガソリン代にもならなかった。ここだと気に入った物をいくつか持ち帰れるのでお得感もある。お店に持って行くより気持ち的にも良い。

得をする

- ・無料で使えるものがもらえるのがよい
- ・不要なものを引き取ってもらえて、また必要なものが手に入るなんてすごく助かります！（特に子供服）
- ・得をした

リユースされなかった製品について

- ・リユースされず、残ってしまった物はどうするのか？と思います。報告していただけたら（チラシなどで）...と思います。

不満点・改善点（会場やオペレーション）

混雑が気になった

- ・人ごみがすごい / 人が多くて大変だった（8名）
- ・並ぶのが疲れた。
- ・人が多くてよく見れなかった。（2名）
- ・人の熱気に圧倒された。

商品陳列が雑 / 整理されていない

- ・どこに何があるかわからないので、欲しい物以外のものをもらってきました。
- ・部屋ごとに洋服、おもちゃなど分かれているとごったがえさなくてよい。
- ・展示品、特に衣類が平積みでみつけづらい（品物サイズ等見るのに大変、少し分けてほしい等）（4名）
- ・品物がとりづらい。
- ・次回はもっと見やすくしてほしい。
- ・ベビー用品のみ別コーナーにしてほしい（特に衣類は見つけづらかった）。

会場が狭い

- ・部屋が狭くて大変（4名）
- ・もっと広いところでしてもらいたい（3名）
- ・参加者が多いので、もっと広い場所を使用できたらいいと思う。
- ・会場が暑かった（2名）

商品の質が悪い

- ・せっかくのリユース品も競争になって持っていくので破損しているものもあり、残念。

段取り・運営が悪い

- ・水色と白色の紙の人が、どこに並んで良いか迷っていた。
- ・優先の紙の意味がなかった。
- ・持ち込みの仕方がわかりづらい。
- ・すこし雑だった。
- ・スタッフをふやしてほしい。

- ・もう少しマネジメントをよくしてほしい。
- ・入場した時には、ほぼ商品がなかった。特におもちゃ。
- ・皆の目ざとさにビックリ!!ほしい物が見つからなかった(すでに入手に渡っていた)。持ち持ち帰り品数が徹底されていなかった。
- ・初めてなので、段取りが悪かったです。回をかさねる毎に良くなると思うので今後に期待します。
- ・列の誘導を再考する必要あり。市役所スタッフ棒立ちが見受けられた。人整理の研修をうけられたい。

駐車場が使いにくい/駐車場のマネジメントが悪い

- ・駐車場がとめにくかった。
- ・駐車場に空きが十分あるにもかかわらず満車の表示を出していることは問題あり。表示を信じて通り過ぎたら、後から来た車をどんどん入場させていた。来場者をあざむくような運営態度はいけません。

種類を増やしてほしい

- ・自転車がほしかった(2名)
- ・大型家具、自動車部品等もあれば良い。(1名)
- ・子供が生まれるのでベビー用品を探しに来ましたがもう少し品揃え良いといいと思いました。特にベビー用品は高価な割には一時的にしか使わない物が多いと思うので、もっとPRしてもらって来年に期待したいと思います。
- ・本が少なかった。
- ・足ぶみマシンがほしかった。

今後への要望

来年も(今後も)やってもらいたい(参加したい)

- ・来年もやってもらいたい/参加したい(14名)
- ・年に1回といわず2~3回してほしい。
- ・大変ですが、またの開催期待してます!
- ・他の人にも伝えて、利用できればと思いました。

時間を早くしてもらいたい

- ・時間をもう少し早くしてほしい。

入場制限などの導入

- ・入場制限して20分ずつ入れ替えにする
- ・一人何分と決めて入場制限してほしい。
- ・1時間制限による、入替制。
- ・もう少し入場方法などを検討してほしい。

会場を広げてもらいたい

- ・もう少し大規模にしてもいいと思います。

託児所がほしい

- ・子どもが心配。託児所を用意してほしい。

イベントの参加しての感想

イベントが楽しかった (30名)

例)

- ・楽しかったです。はじめて来たけど楽しかった。
- ・最高にエキサイトしました。
- ・いろんなものがあって、見ているだけでおもしろかった。
- ・たくさんあってまよいましたが、たのしかったです。
- ・探すのも楽しい。
- ・ほしいものがゲットできた。

予想以上の品ぞろえがよかった

- ・ほしい物があったから、うれしかった。
- ・掘出し物を見つけて、嬉しかった。楽しかったです。
- ・めずらしいものがあるのでよいです。

- ・思っていたよりも物も多くてよかった。
- ・たくさんあっておどろきました。満足でした。
- ・思ったよりも充実していました。
- ・ほしいものがあったて本当によかった。
- ・子供用品が多くてびっくりしました。よかったです。

にぎわっているのが良かった/驚いた(13名)

例)

- ・にぎわっていてよかった。
- ・すごい人数でおどろいた。
- ・思った以上に人がいた。
- ・活気があってよかった。
- ・ビックリした。
- ・参加人数が思ったより多かった。

来年も(は)出品したい

- ・来年もあるなら、リユースできる物をおいておきたいです。
- ・こんなに盛大だとは思いませんでした。来年は商品も提供したいと思っています。
- ・今度は持ってこようと思います
- ・新品同様か未使用のものしか出せないものと思っていましたが、使いこんだものも多くみられ、持っていく方も多くいるようだったので次回はもっと出せるものがありそうです。

その他

- ・子供も楽しめて良かった。

その他

運営がよかった

- ・段階別にしたのがよかった。
- ・思っていた以上に回転が良かったので、スタッフさんの手際が良かったのかなと思います。いい心がけだと思います。

その他

- ・募金を募り震災等に寄附したら
- ・初めてなので、見学させてもらった。
- ・ころとんにあいたかった。
- ・市の役に立てるなら。

(以上)

II. 神奈川県葉山町

葉山町リユースモデル事業 報告書

1. 事業の概要

リユース体験型イベントによる普及啓発促進事業「くるくる市」を開催した。町民にリユース可能な製品を持ち込んでいただき、欲しい品を無料で持ち帰ってもらった。民間リユース事業者とも連携し、残った製品等も可能な限りリユースを行った。

「くるくる市」は、12月15日(日)(於：図書館ホール)、1月19日(日)(於：図書館ホール)、2月9日(日)(於：福祉文化会館 大会議室)の計3回開催した。

事業の概要

日時	取組内容
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動(町の広報、ちらし配布(1回目:町内会回覧、町内掲示板(55箇所)各戸配布、公共施設・スーパー・銀行等で配布)、町ウェブサイトでの案内) ・資材準備、リユース事業者等との調整などの事前準備
12月15日(日) 第1回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回くるくる市を図書館ホールにて開催。10時~15時。 ・持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動(ちらし配布(2回目)、町ウェブサイトでの継続案内) ・第1回の開催状況を踏まえて、対象品目等の見直し、ちらしの修正
1月19日(日) 第2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回くるくる市を図書館ホールにて開催。10時~15時。 ・持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
2月9日(日) 第3回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回くるくる市を福祉会館 大会議室にて開催。10時~15時。 ・持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
効果測定・成果とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者アンケートの集計 ・参加者への追跡アンケートの実施、集計 ・一般町民向けアンケートの実施、集計

1.1 対象品目

本事業は、「衣類、服飾雑貨」、「本」、「CD、DVD、ビデオ」、「食器」、「バッグ」、「靴」、「ぬいぐるみ」、「おもちゃ」、「その他日用品」を対象品目として実施した。粗大ごみ、家電リサイクル法対象品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤーなどの小型家電)は対象外とした。

なお、持ち込み禁止品についてもリユースを希望する場合には、町が運営する不用品交換掲示板「葉山リサイクル掲示板」の登録を会場にて受け付けた。

「くるくる市」で対象としたリユース品

品目	詳細説明
衣類、服飾雑貨	洗濯済みのもの。毛玉等はできるだけとること。 服飾雑貨 = マフラー、帽子、ネクタイ、ベルト
本	落丁していないもの。ほこり等はできるだけとること。
CD、DVD、ビデオ	著作権侵害にならないもの。個人編集、録音、録画したものは不可×
食器	割れていないもの。
バッグ	スーツケースや1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
靴	靴底がはがれていないこと。
ぬいぐるみ	目立つ汚れがないもの。1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
おもちゃ	1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
その他日用品	衛生管理上支障あるものは不可×（トイレ・お風呂用品など）

1.2 取組の概要

(1) イベント当日のフロー

町民が持ち込んだ不用品は、会場入口付近に持ち込み用受付を設置し、対象品目以外のものが混入していないかを簡単に確認したうえで、品目とその重量を計測し、持ち込み者用アンケートの記入を依頼した。

また、対象品目以外の不用品については、会場内にて「ゆずります」「ゆずってください」の情報を登録できる「葉山リサイクル掲示板」の登録できるようにした。

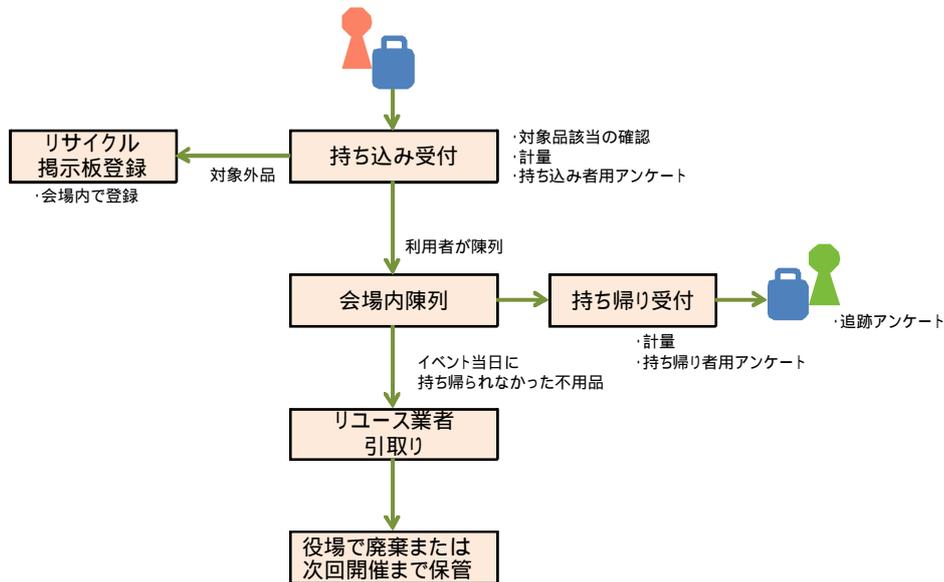
イベント当日におけるリサイクル掲示板登録件数（1～3回合計）＝20件（うち13件成立済み）受付後は、おおまかに品目ごとに指定された陳列場所へ各自が陳列した。

持ち帰りの希望者には、持ち帰り用受付を設置し、持ち込み用受付と同様に品目及び重量を計測し、持ち帰り者用アンケートの記入を依頼した。

イベント終了時に持ち帰られなかった不用品のうち、リユース可能なものについてはリユース事業者が引き取り、最終的に残ったものについては、葉山町役場にて次回開催までの保管または適正処理を行った。

受付にて対象品の確認を行なったことで、最終的にごみとなりそうなものを事前に排除することができた。

イベント当日のフロー



(2) 事業の効果測定

当日の会場内にて持ち込み品及び持ち帰り品の品目ごとの計量、アンケートを実施した他、不用品を持ち帰った町民に対して、同意を得て追跡調査アンケートを実施し、利用状況等を確認した。

1.3 役割分担

葉山町は「くるくる市」の主催者として、開催に向けた企画・準備・当日運営・効果測定等を行った。市民団体「ゼロ・ウェイストを考え、進める会」、「ごみへらし隊」はリユース品の受付、仕分け整頓、当日の会場運営の支援を、リユース事業者は残った衣類等の引き取り等を行った。

1.4 広報・PRの方法

イベント第1回の前後にチラシ作成を行い、合計で32,700枚発行した。全戸配布(2回)町の広報紙・ホームページでの案内、ボランティアスタッフによるスーパー前での配布、町内会回覧・掲示板、各公共施設その他銀行・郵便局などにおいて配布などを実施した。

< チラシ作成・配布 >

・作成枚数

12月実施分：16,150枚（カラー印刷）

1・2月実施分：16,550枚（カラー印刷）

・配布方法

全戸配布(2回)

町内会・自治会回覧(2回)

町内主要施設への設置(役場、福祉文化会館、図書館、銀行・郵便局(4箇所))

町内主要施設での配布(スーパー・児童館・役場前(8回))

環境イベントでの配布(資源物拠点回収“土よう広場”(10回))

掲示板への掲示(町内掲示板(55箇所)、スーパー(3箇所)、保育園・幼稚園(2箇所))

< 広報 >

・葉山町ホームページ

・「広報はやま」2回(カラー1ページ)

・地域新聞“タウンニュース”

・業者によるプレスリリース(1件)

ちらし(第1段)

環境省 リユースモデル事業

「もう使わないけど、捨てるにはもったいない…」
 「欲しいんだけど、誰かゆずってくれないかなあ…」
 そんな方はぜひお越し下さい!

葉山町民対象

くくる市

開催日時・場所

第1回：12月15日(日)10:00~15:00@図書館ホール
 第2回：1月19日(日)10:00~15:00@図書館ホール
 第3回：2月9日(日)10:00~15:00@福祉文化会館 大会議室

Reuse(リユース)とは?

形を変えずにそのまま再使用するのが「リユース」です。まだ使えるものを再使用することで、「ゴミを出さない・増やさない」ことが目的です。くくる市は、ご家庭で使わなくなった衣類、書籍、食器などを町内で「くくる市」循環させ、リユースを進めるためのイベントです。くくる市で「リユースでエコな暮らし」始めてみませんか?

※当日は葉山リサイクル掲示板の登録・閲覧もできます。
 ※粗大ごみ、家電4品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤー、コーヒーメーカーなどの小型家電)は受け付けられません。

◆◆お持込みいただきたいもの◆◆

⚠️ **持ち込み品基本原則**

①使用可能なもの
 ②破損・汚れ等はないもの

※粗大ごみ、家電4品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤー、コーヒーメーカーなどの小型家電)は受け付けられません。
 ※上記の他に受け付けられない場合もありますので、ご了承ください。
 ※お持込みいただいたものが残った場合、持ち帰りの必要はありません。

品目 ※注意事項※

衣類	洗濯済みのもの。毛玉等はできるだけとること。
本	落丁していないもの。ほこり等はできるだけとること。
食器	割れていないもの。
バッグ	スーツケースや1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
靴	靴底がはがれていないこと。
ぬいぐるみ	目立つ汚れがないもの。1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
おもちゃ	1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
その他日用品	衛生管理上支障あるものは不可×(トイレ・お風呂用品など)

◆◆お持ち帰りについて◆◆

- ◆無料でお持ち帰り頂きます。
- ◆マイバッグ持参にご協力お願いします。

◆◆当日は葉山リサイクル掲示板の登録・閲覧も出来ます◆◆

当日持ち込み出来ない品(粗大ごみや小型家電)についてもゆずりたい・ゆずってほしいという方は、「ゆずります」「ゆずってください」の情報を登録出来る葉山リサイクル掲示板をご利用ください。

※リサイクル掲示板にも登録できない品があります。
 詳しくは町HPにて。http://www.town.hayama.lg.jp/recycle/

~ご協力お願いします~

ご来場のみならずには、環境省モデル事業効果測定のため、アンケート記入に協力して頂きます。

主催：葉山町
 協力：ごみへらし隊
 ゼロ・ウェイストを考へ・進める会
 問合せ：葉山町環境課
 TEL：046-876-1111(内線453)

2. モデル事業の実施状況

2.1 参加者数

来場者数は第1回が400人、第2回が450人、第3回が50人であった。第3回は開催日の前日が大雪であったために来場者数が少なかったと考えられる。

～ くるくる市の利用状況実績～

	天候	来場者数	持ち込み		持ち帰り	
			人数	重量(kg)	人数	重量(kg)
第1回 (平成25年12月15日)	晴れ	400	221	1,896	230	1,333
第2回 (平成26年1月19日)	晴れ	450	228	1,534	279	968
第3回 (平成26年2月9日)	晴れ 前日:大雪	50	22	150	42	199

2.2 当日の様子



持ち込み・持ち帰り受付の様子



会場の様子



リサイクル掲示板登録・閲覧の様子



食器



衣類



衣類



靴・バッグなど



子ども用品(おもちゃ・ぬいぐるみ)

3. モデル事業の効果

イベント当日は、持ち込み、持ち帰りそれぞれの利用者に対して、品目ごとの計量及びアンケートを行い、モデル事業の効果測定した。

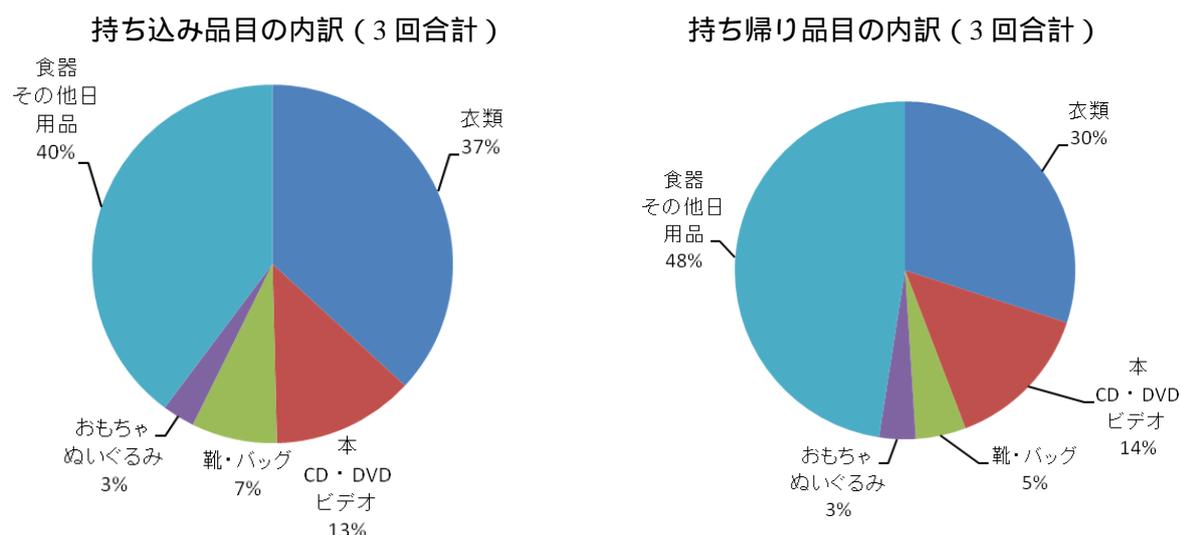
3.1 リユースの実績

(1) 町民によるリユース品の持ち込み及び持ち帰り状況

計量は、「衣類」、「本・CD・DVD・ビデオ」、「靴・バッグ」、「おもちゃ・ぬいぐるみ」、「食器・その他日用品」の5つに分類して行った。

持ち込まれた品目は、各回とも重量ベースで「食器・その他の日用品」が40%、「衣類」が37%と大半を占めた。次いで、「本・CD・DVD・ビデオ」が13%、「靴・バッグ」が7%、「おもちゃ、ぬいぐるみ」が3%であった。

持ち帰られた品目は、「食器・その他日用品」が48%、「衣類」が30%と持ち込みと同様に大半を占めた。次いで、「本・CD・DVD・ビデオ」が14%、「靴・バッグ」が5%、「おもちゃ、ぬいぐるみ」が3%であった。



持ち帰り率でみると、3回の合計で「おもちゃ・ぬいぐるみ」と「食器・その他日用品」が83%、「本・CD・DVD・ビデオ」が78%と高い割合であった。最も低い割合であった「靴・バッグ」でも43%が持ち帰られており、今回のイベントを通して多くの不用品リユースされたことがわかる。

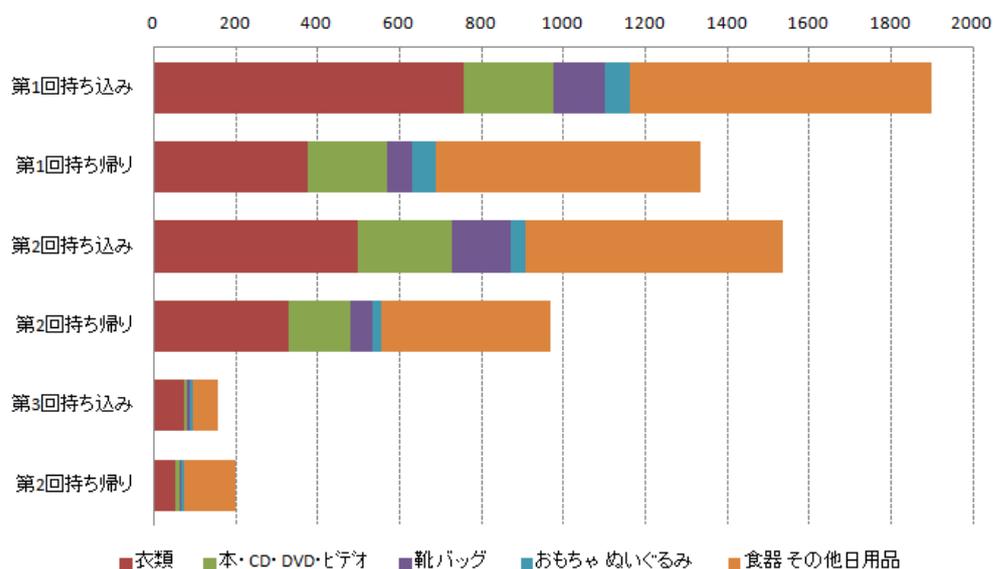
第1回から第3回までのリユースの実績

単位：kg

品目	第1回			第2回		
	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率
衣類	754	375	50%	495	327	66%
本・CD・DVD・ビデオ	221	193	88%	232	151	65%
靴・バッグ	124	62	50%	143	53	37%
おもちゃ・ぬいぐるみ	60	58	96%	37	22	60%
食器・その他日用品	737	644	87%	628	416	66%
合計	1896	1333	70%	1534	968	63%
品目	第3回			合計		
	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率
衣類	74	49	66%	1,322	750	57%
本・CD・DVD・ビデオ	4	11	280%	457	355	78%
靴・バッグ	8	4	53%	275	119	43%
おもちゃ・ぬいぐるみ	7	7	94%	104	86	83%
食器・その他日用品	63	128	203%	1,428	1,189	83%
合計	150	199	133%	3,581	2,500	70%

くるくるBOX（衣類・本のみ）からの持ち込み分、前回繰り越し分は計量していないため、持ち帰り量が持ち込み量を上回っている品目がある。

第1回から第3回までのリユースの実績グラフ



(2) リユース事業者への引渡し状況

「衣類・服飾雑貨」「バック・靴」「本」については、本事業において連携したリユース事業者へ引き渡しを行なった。

引き渡した量の約7割を「衣類」が占めた。「本」については、イベント内での持ち帰りが多かったため、あまり多くの量を引き渡すことはできなかった。

引取り後の再商品化の状況についてリユース事業者ヒアリングを行ったところ、「服飾雑貨・バッグ・靴・ぬいぐるみ」は全量がリユースされたが、「衣類」の一部及び「本」はリユースすることができず、廃棄・リサイクルされたことがわかった。

リユース事業者への引き渡し状況

	衣類・服飾雑貨	バッグ・靴 ぬいぐるみ	本	合計
引渡し量	651.9	146.7	150	948.6
商品化量	628.2	146.7	0	774.9
廃棄・リサイクル量	23.7	0	150	173.7

廃棄・リサイクルに回ったものは、衣類・本のみ。

3.2 来場者アンケートの結果

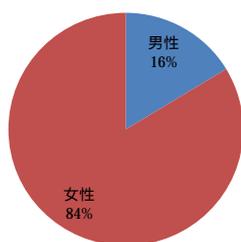
持ち込み回答者数：379人

持ち帰りアンケート回答者数：395人

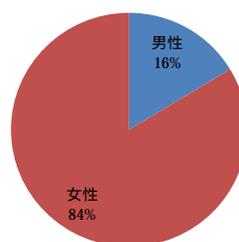
(1) 来場者の性別・年代・家族構成

来場者の属性をみると、持ち込み、持ち帰りのいずれにおいても女性、年代では40代以上、家族構成は子どもありの世帯の利用が多かった。

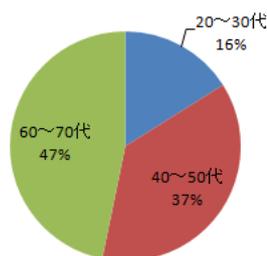
来場者の性別（持ち込み）(N=379)



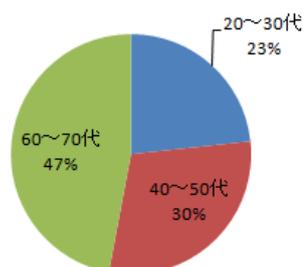
来場者の性別（持ち込み）(N=395)



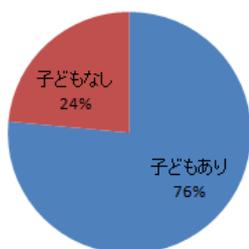
来場者の年代（持ち込み）(N=374)



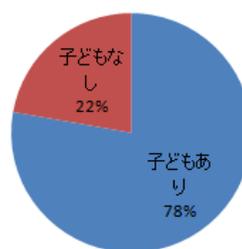
来場者の年代（持ち帰り）(N=391)



来場者の家族構成（持ち込み）(N=234)



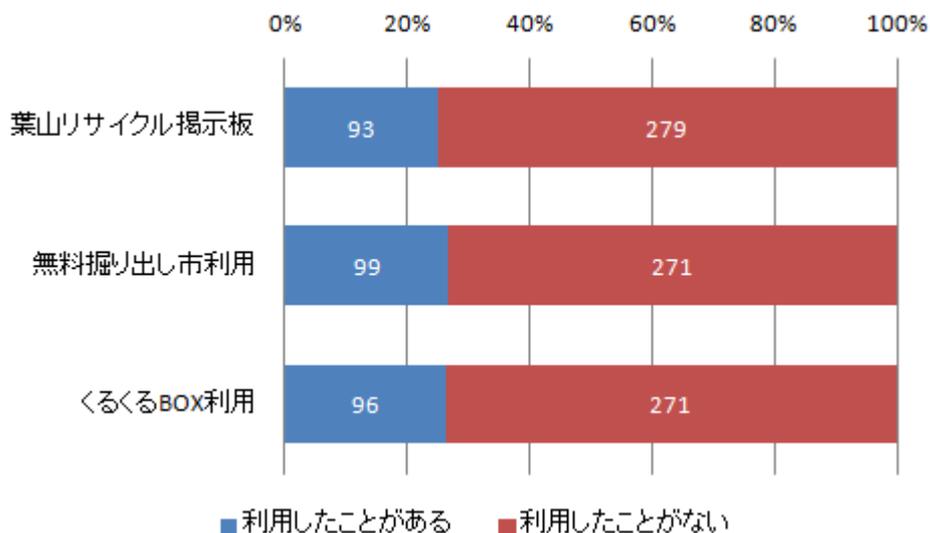
来場者の家族構成（持ち帰り）(N=243)



(2) 町内におけるリユースの取組みの過去の利用経験

町内で実施されているリユースの取組み「葉山リサイクル掲示板」「無料掘り出し市」「くるくるBOX」の利用経験を聞いたところ、いずれも「利用経験あり」の回答は40%以下であり、今回のイベントで新たにリユースの取組みに参加した人が多かった。

町の事業として行なっている「葉山リサイクル掲示板」については、年に4回以上「広報はやま」に紹介記事を掲載しているが、取組みに対する認知度は向上の余地があることもわかった。



(参考)

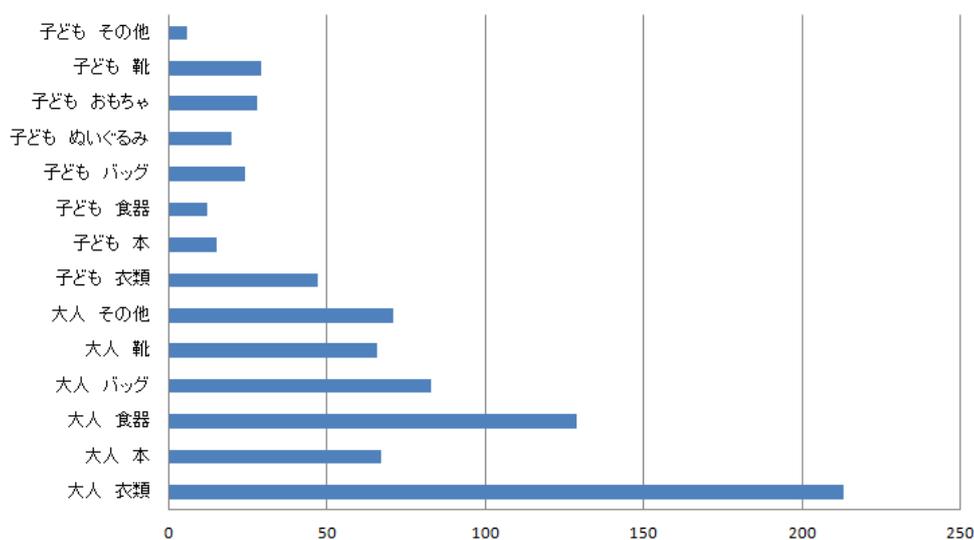
無料掘り出し市：市民団体「ゼロ・ウェイストを考え、進める会」が開催している不用品交換のイベント。時間内に自由に持ち込み、持ち帰りができるイベントだが、原則持ち込んだ人が持ち帰るシステムとなっている。持ち帰りたくない場合には、有料(100円)で主催者が引き取り、その中でも、引き取り手が見付かりそうな良い品は、次回開催まで主催者が保管している。

くるくるBOX：葉山町環境課が募集したボランティアスタッフ「ごみへらし隊」が毎週土曜日午前中に実施している古紙などの資源物の拠点回収と同時に行っている不用品交換スペース。当日残ったものは、ボランティアの担当者が仕分けしてBOX 1個に収まる程度の量にし、次週に持ち越す形式で運営している。

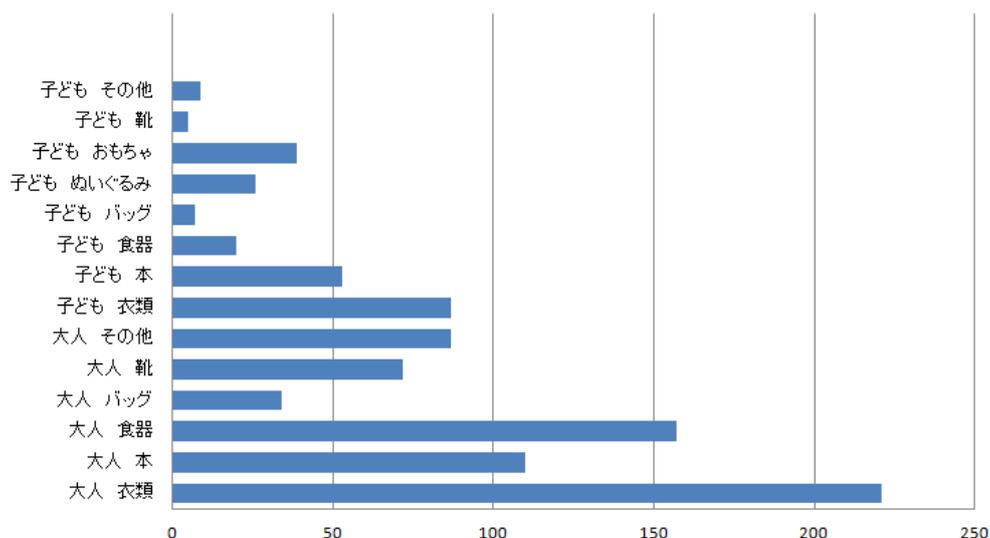
(3) 品目別持ち込み・持ち帰り点数

持ち込み点数は、大人向けの衣類、食器、バッグ等が多かった。子供向けでは、おもちゃ、靴などが多かった。

品目別持ち込み点数



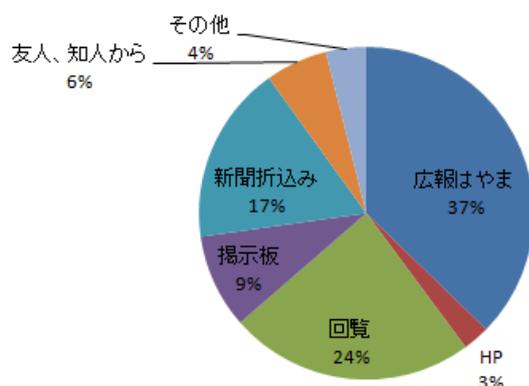
品目別持ち帰り点数



(4) くるくる市を知ったきっかけ *複数回答可

「広報はやま」が37%と最も多く、次いで「回覧」が24%、「新聞折込み」が17%と続いた。「友人、知人から」が6%あり、短い期間にもかかわらず口コミで広がっていたことがわかる。

イベントを知ったきっかけ (N=553)



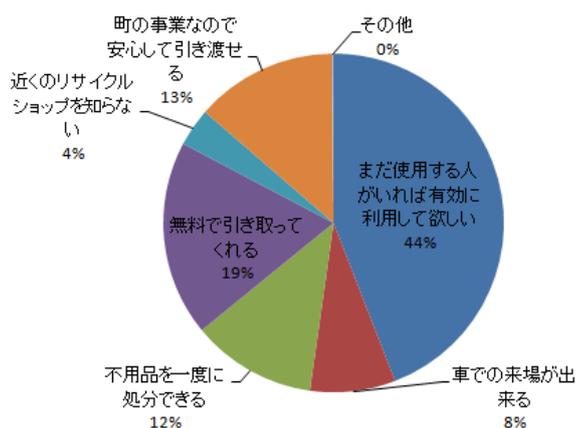
(5) くるくる市を利用した理由 (持ち込み・持ち帰り) 複数回答可

持ち込み者がくるくる市を利用した理由は、「まだ使用する人がいれば有効に利用して欲しい」が44%と最も多かった。

また、「不用品を一度に処分できる」が12%、「無料で引取ってくれる」が19%あり、片付けを行ったときの不用品の処分方法としての支持も高いことがわかった。

「町の事業なので安心して引き渡せる」も13%あり、市民、事業者と町が連携した効果が表れている。

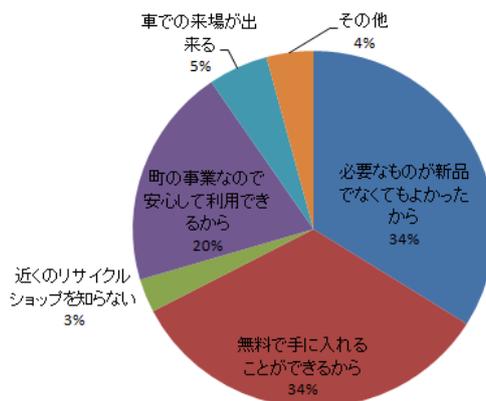
くるくる市を利用した理由（持ち込み）（N=743）



持ち帰り者がくるくる市を利用した理由は、「必要なものが新品でなくてもよかったから」「無料で手に入れることができるから」がそれぞれ 34%と最も多かった。

また、「町の事業なので安心して利用できるから」も 20%と高く、持ち込みの場合と同様に市民、事業者と町が連携した効果が表れている。

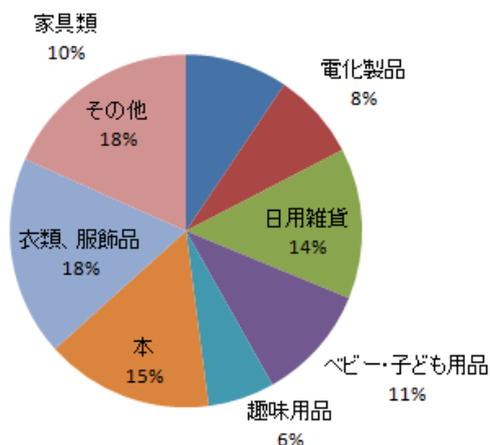
くるくる市を利用した理由（持ち帰り）(N=690)



（6）リユース品として出したいもの・入手したいもの 複数回答可

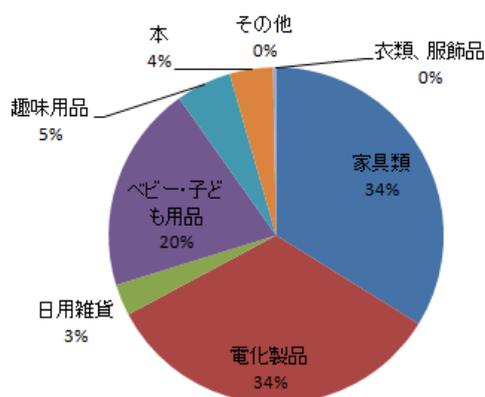
持ち込み者に対して、リユース品として出したいものを尋ねたところ、「日用雑貨」「本」「衣類・服飾品」などが多かった。

リユース品として出したいもの（持ち込み者対象）



持ち帰り者に対してリユース品として入手したいものを尋ねたところ、「家具類」「電化製品」「ベビー・子ども用品」が多かった。「家具」や「電化製品」は比較的高額な品物であること、「ベビー・子ども用品」については使用期限が限られていることなどが理由として考えられる。

リユース品として入手したいもの（持ち帰り者対象）

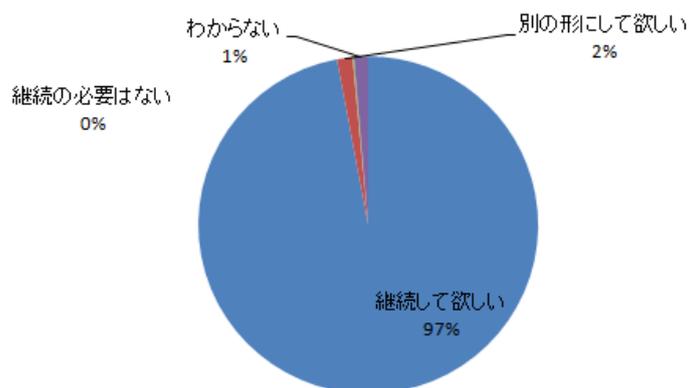


(6)(7)の回答結果より、「リユース品として出したいもの」と「リユース品としてあったら良いと思うもの」は必ずしも一致しないことが分かった。しかし一般町民アンケートにおける退蔵品（処分せずに自宅に保管している不用品）は「リユース品としてあったら良いと思うもの」と一致した。それぞれのニーズが一致するような仕組みを発展させていく必要もあると考えられる。

(7) イベントの継続について

今後のイベントの継続については、「継続して欲しい」が97%と大半を占めた。

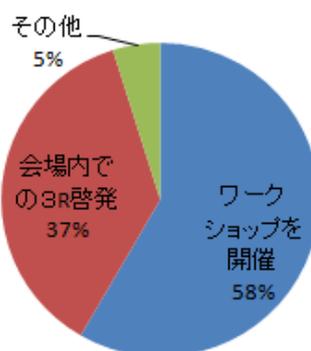
イベントの継続について (N=733)



(8) 事業内容に期待すること *複数回答可

くるくる市に期待することとしては、「ワークショップを開催」が58%と最も多かった。

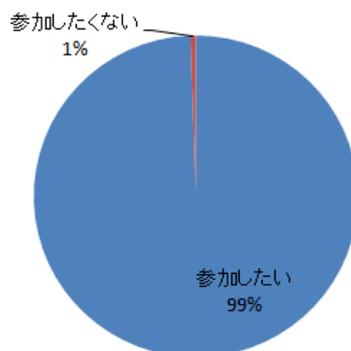
事業内容に期待すること (N=497)



*ワークショップ：余った布でバッグ・靴下作りのワークショップなど

(9) 今後の参加意向 (N=733)

今後の参加意向 (N=379)



3.3 持ち帰り者追跡アンケートの結果

持ち帰りの利用者のうち、持ち帰り者用アンケートにおいて追跡調査への協力に同意した方に対して持ち帰り者追跡アンケートを実施した。

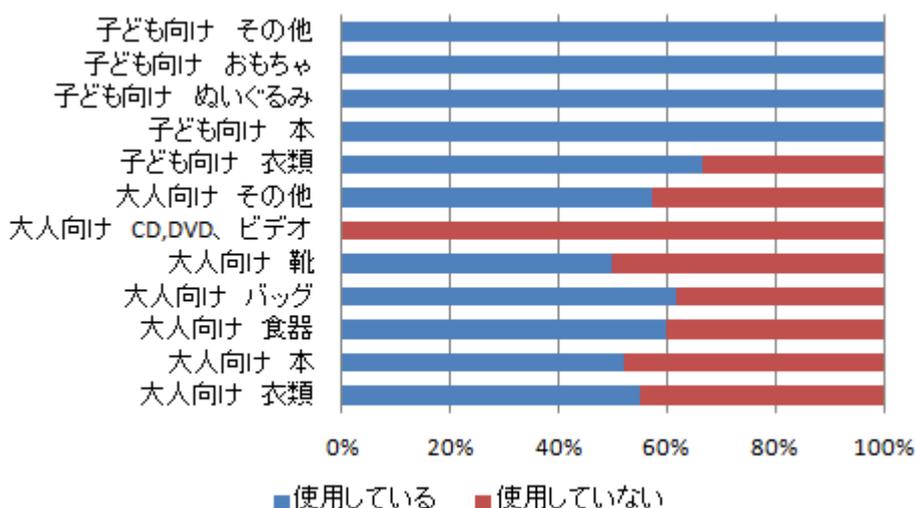
持ち帰りアンケート対象：44件 回答数：38件

(1) 持ち帰った物の現在の使用状況

イベントから持ち帰ったものの使用状況について尋ねたところ、子供向けのおもちゃ、ぬいぐるみ、本は「使用している」が100%であった。

子供向けの衣類、大人向けの靴、バッグ、食器、本、衣類は約半数が「使用している」と回答した。

大人向けのCD、DVD、ビデオは「使用していない」が100%であった。

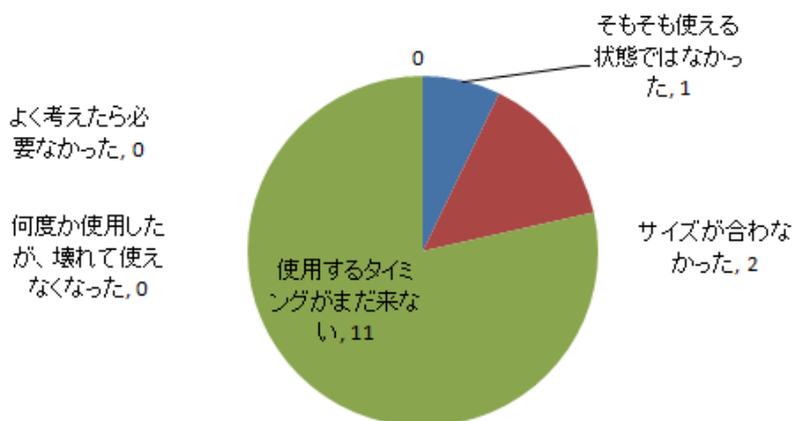


(2) 使用していない理由

(1)において「使用していない」と回答した品物についてその理由を尋ねたところ、「使用するタイミングがまだ来ない」が79%と最も多く、「夏になってから使う」などの季節性の理由や、「子どもが大きくなったら使用する」などの理由が挙げられた。

「そもそも使える状態ではなかった」も7%あり、リユースできない不用品が含まれていたことがわかった。

使用していない理由 (N=14)



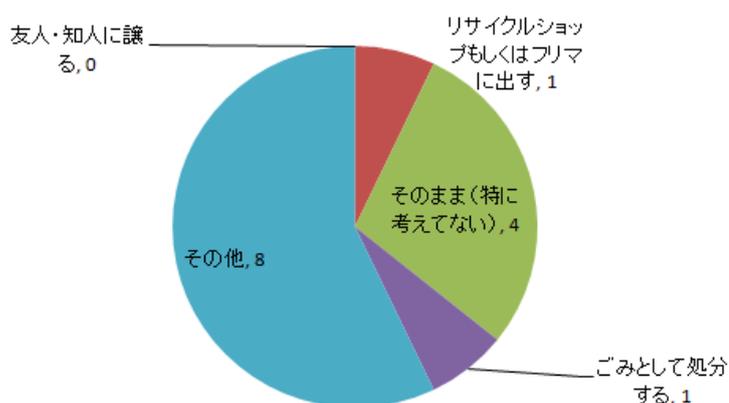
(3) 使用していない物の今後の取り扱い

使用していない物の今後の取り扱いを尋ねたところ、「そのまま(特に考えていない)」が29%と多かった。

また、最も多かった「その他」の回答としては、「衣類を靴下などにリメイクした」「翌月のくるくる市へ出品した」「次回のくるくる市へ出品する」であり、「リサイクルショップもしくはフリマに出す」と合わせて多くが再びリユースする意向であることがわかった。

「ごみとして処分する」は7%であった。

使用していない物の今後の取り扱い (N=14)



3.4 一般町民向けアンケート

一般町民を対象に、無作為抽出のアンケートを実施し、くるくる市及びリユースに対する認知度・意識状況を把握した。

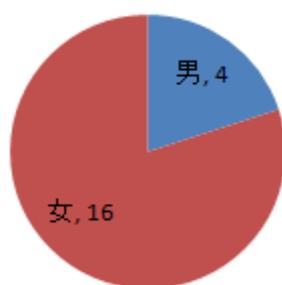
アンケート送付数：100名

回答数：20名

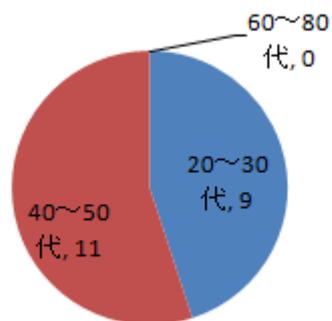
(1) 回答者の性別・年代

回答者の属性を以下に示す。

回答者の性別

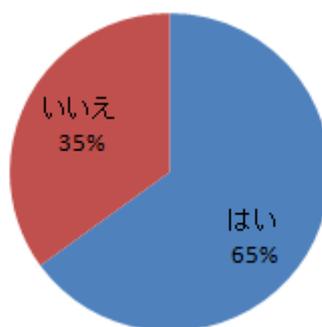


回答者の年代



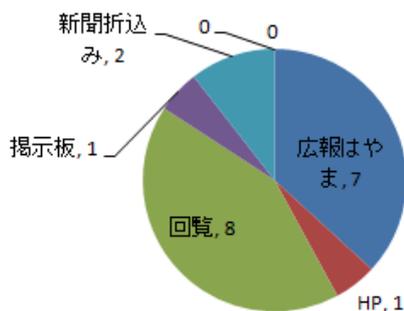
(2) “くるくる市”の認知度

くるくる市の認知度を尋ねたところ「はい」が65%であり、半数以上の人を知っていた。



(3) “くるくる市”を知ったきっかけ

くるくる市を知っていると回答した方に、知ったきっかけを尋ねたところ、くるくる市の参加者と同様に、「広報はやま」「回覧」の回答が多数を占めた。



(4) リユースという形で不用品を処分した経験の有無

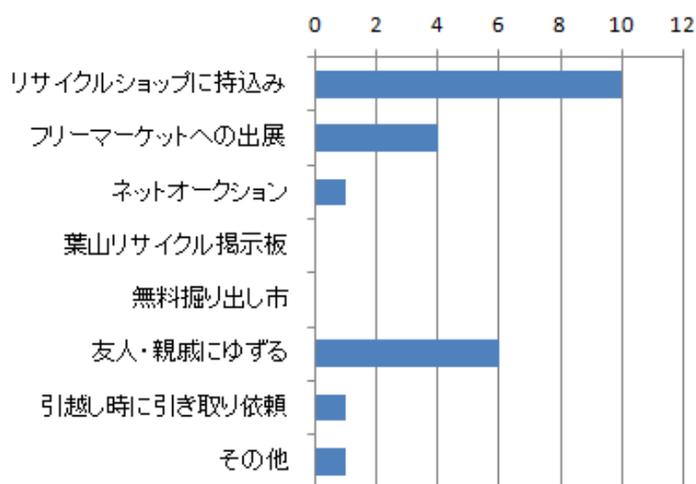
「ある」 = 15人

「ない」 = 5人

「ある」と答えた方の具体的なリユース方法 複数回答可

リユースをしたことがあると回答した方にその具体的な方法を尋ねたところ、「リサイクルショップに持ち込み」が44%と最も多く、次いで「友人・親戚にゆずる」が26%であった。

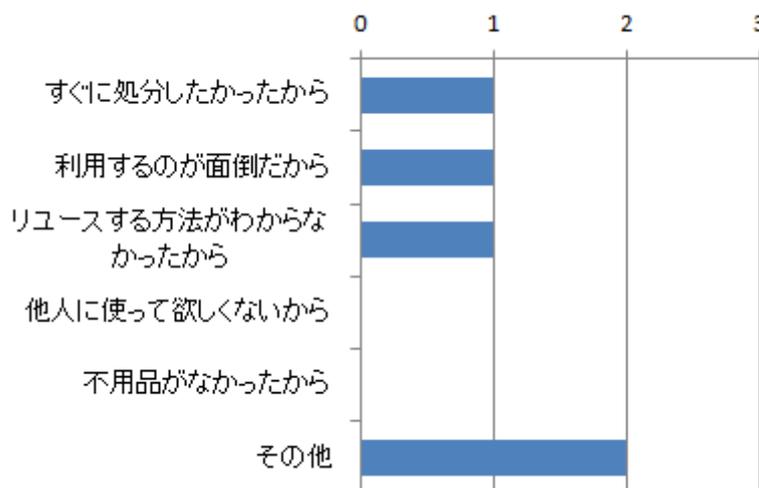
利用したことのあるリユース (N=23)



「ない」と答えた方の理由 複数回答可

リユースをしたことがない人の理由は、「すぐに処分したかったから」「利用するのが面倒だから」「リユースする方法がわからなかったから」がそれぞれ20%を占めた。

リユースを利用しない理由 (N=5)



(5) リユースという形で不用品を購入(ゆずってもらう等)した経験の有無

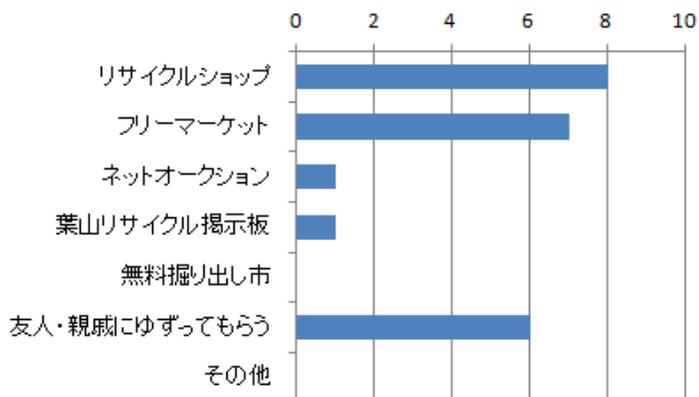
「ある」= 14人

「ない」= 6人

「ある」と答えた方の具体的なリユース方法 複数回答可

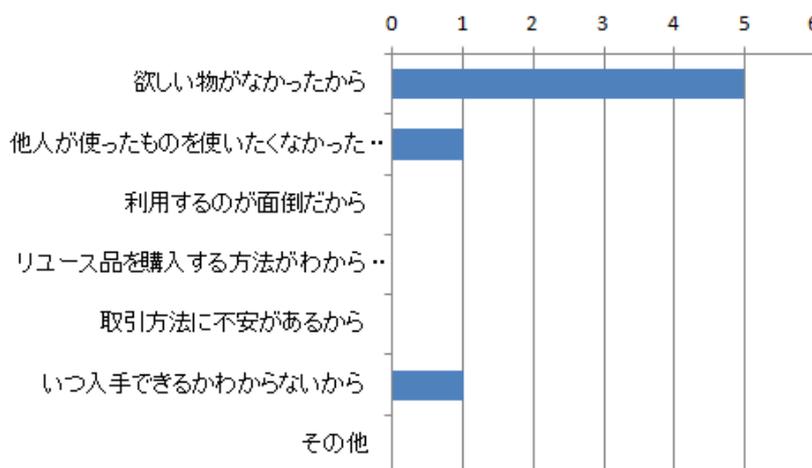
リユースの方法としては、「リサイクルショップ」「フリーマーケット」の回答が多かった。

具体的なリユース方法 (N=23)



「いいえ」と答えた方のリユースしない理由 複数回答可

リユースという形で不用品を購入(ゆずってもらう等)した経験がない理由を尋ねたところ、「欲しいものがなかったから」が最も多かった。



(6) 現在、自宅に処分せずに保管している不用品（使用済または未使用）の有無

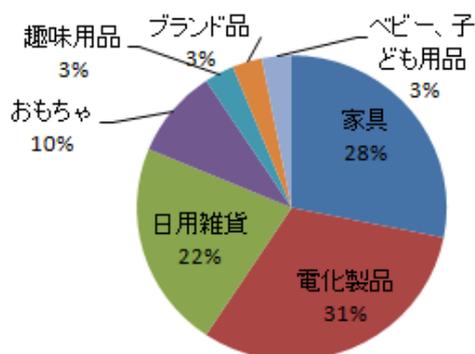
「ある」 = 19人

「ない」 = 0人

「ある」と答えた場合の具体的な品目

「電化製品」が31%と最も多く、次いで「家具類」が28%、「日用雑貨」が22%となった。これは、来場者アンケートにおける「リユース品としてあったら良いと思うもの」と同じ傾向であり、処分せずに保管している不用品を各家庭からリユースに提供するきっかけを増やすことで、リユースを促進できる可能性があると考えられる。

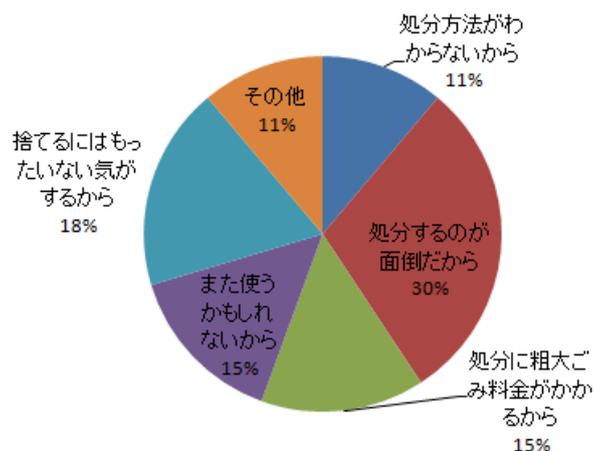
自宅に保管している不用品 (N=32)



「ある」と答えた方の不用品を処分しない理由は

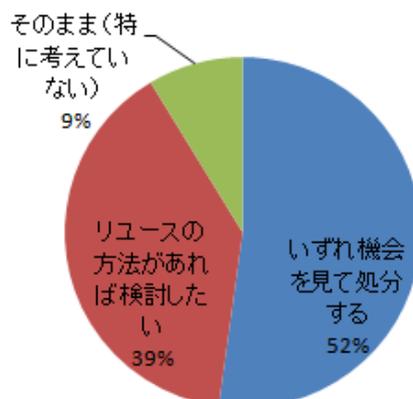
処分しない理由としては、「処分するのが面倒だから」が30%で最も多かった。その他「処分に粗大ごみ料金がかかるから」が15%、「処分方法が分からないから」が11%となり、処分に手間・費用がかかることが、「また使うかもしれないから」「捨てるにはもったいない気がするから」という今後の利用可能性による理由を上回った。

自宅に保管している不用品 (N=27)



「ある」と答えた方の今後の取り扱い意向

「いずれ機会を見て処分する」が全体の半分以上を占めた。次いで「リユース方法があれば検討したい」が39%となった。の結果を踏まえると、“処分”するよりも簡単に“リユース”する方法を提案できれば、家具や電化製品についてもより多くのリユースが期待できると考えられる。



3.5 リユース事業者へのヒアリング結果

連携したリユース事業者に対して、引取りを行なった不用品の品質、量及び本事業の採算性についてヒアリングを行った。

(1) 品質・量について

品目	品質 (5段階評価)	量 (5段階評価)	意見
衣類	2 (やや不満)	2 (やや不満)	2 (やや不満)としたが、来場者の持ち帰り後には、国内リユース出来るものがある。また、廃棄となるものも少なく国外でのリユースが可能。
服飾雑貨	2 (やや不満)	3 (普通)	特になし。
靴・バッグ	3 (普通)	4 (やや満足)	靴は未使用品に近い物もある。靴・バッグともに廃棄となるものが少なく、国内リユース品以外の大半が国外リユースする事が可能。
ぬいぐるみ	2 (やや不満)	3 (普通)	キャラクターものがもっとあると良い。
本	1 (不満)	1 (不満)	店頭に並んでいる商品と比べると、全て質が悪いため、廃棄となる。
CD・DVD ・ビデオ	1 (不満)	1 (不満)	特になし。

(2) 本事業における採算性について

「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者

支出 1		収入 2	
金額 (円)	内訳 (例：回収費 = 円)	金額 (円)	内訳 (算出根拠も記入) (例：衣類 = 円)
32,100	物流費 = 18,000 円 資機材費 = 5,900 円 廃棄費用 = 1,200 円 人件費 = 7,000 円 算出根拠 物流費：実費 製造経費：10 円 / kg で算出 廃棄費用：50 円 / kg で算出 人件費：1,000 円 × 7h で算出 上記に含んでいないが実際に掛かった支出 立会移動費 = 10,000 円(実費)	41,200	衣類・小物 (国内) = 29,400 円 衣類・小物 (国外) = 11,800 円 算出根拠 国内：販売効率 50%・平均単価 200 円 / 点で算出 国外：平均単価 20 円 / kg で算出

「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者

支出 1		収入 2	
金額 (円)	内訳 (例：回収費 = 円)	金額 (円)	内訳(算出根拠も記入) (例：衣類 = 円)
8,200	人件費：7,500円 交通費：700円 2名分×2回 第3回は量が少ないため回収はしなかった。	0	

本は協力事業者よりリサイクルとして全量を古紙業者へ無料で引き渡した。

(3) 本事業に対する評価

- ・「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者
「良かった」

事業内容として、非常に良い取り組み。持ち出しがあつての取り組み協力は難しいが、今回のように輸送コスト負担のみならば、コスト面で大きな問題はない。

- ・「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者
「どちらでもない」

商品売上利益を求めたものではなかったため、事業協力ができて良かった。また、広告宣伝できたという部分で、利益は存在すると思う。リユースすることで、廃棄物を減らそうとする取り組みは非常に良い。

(4) 今後の連携・展開について(連携するにあたり、改善点など)

- ・「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者
「連携したい」

現状のままで問題なし。(案)として、持ち込みした方に何かインセンティブを設けることで、事業の促進・拡張に繋がられるのではないかと。

- ・「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者
「どちらでもない」

3.6 モデル事業にかかる経費及び人員

<経費>

項目	支出	
	金額(円)	備考
チラシ作成	469,748	2回作成
チラシ配布	178,290	2回配布
消耗品購入	32,225	(内訳) 計量器、ハンガーなど
アンケート発送費用	0	町の郵送システム利用
アンケート回収費用	11,520	一般町民アンケート 100 通分 持ち帰り者追跡アンケート 44 通分
合計	691,783	

<人員>

	職員	ボランティア
第1回	5名	15名
第2回	6名	16名
第3回	6名	11名

3.7 モデル事業の成果・課題（まとめ）

（1）成果

<ごみの減量効果>

- ・ 多く町民にリユースをすることで「ごみを増やさない・出さない」という意識付けが出来た。

<事業者と連携が出来た>

- ・ 従来から実施しているイベントの「無料掘り出し市」における課題として、「イベント終了後のスタッフの負担」が挙がっていたが、事業者に審査・引取りしてもらうことで、その負担を大きく減らすことができた。
- ・ 一部の事業者が行政との連携に関心を持っており、今後の連携のための関係構築ができた。
- ・ リユース市場の現状を知ることができ、引取り後にリユースされやすいもの・されにくいものを把握することができた。

<今後の参考になった>

- ・ リユース（再使用することでごみを出さない・増やさないこと）に多くの町民の方が賛同してくれていること（ニーズがあること）が分かった。
「ごみ減量」などに興味が無い人でも「もったいない」という気持ちを持っている人が多くいる。そこからアプローチしていくことで、ごみ減量施策につなげられるということが分かった。（会場内で3Rの推進啓発を実施するチャンス）
- ・ このようなイベント内容・形式であれば、ボランティアスタッフが集まりやすいということが分かった。
当日のボランティアスタッフ数：計42名（第1～3回延べ）
- ・ アンケート結果から、従来のリユース形式（リサイクル掲示板・くるくるBOX・無料掘り出し市）の認知度が低いことが分かり、広報が重要であることが分かった。
- ・ イベント開催するための最適な場所が分かった。
車での来場者が多いため、駐車所が確保できる場所であること。葉山町内の公共交通手段はバスのみであるため、バスの本数が多く出ている場所であること。備品・終了後の品の保管場所として役場を利用するため、役場付近であるとスタッフの負担が減るということ。
- ・ 「持ち込み禁止品」を持ち込んでしまった場合に「リサイクル掲示板」を案内することができて良かった。
せっかく持込んだものをただ持ち帰るだけでなく、リサイクル掲示板に登録することが出来て良かったとのこと。

（2）課題

- ・ リユース品にならずに廃棄になるものを減らすために、「事前の周知方法」「受付における審査」を徹底すべき。

今回は受付審査におけるスタッフマニュアル・事前の打ち合わせなどを行なったが、それでも廃棄に回るものが少なからず出た。今後は受付では計量せず、審査のみを実施することで厳しいチェックにするなど。事前の周知方法についても、工夫する必要がある。

- ・ リユース事業者にも引き取ってもらえなかった品についての取り扱い。

「食器」「その他日用品」は今回どこの業者にも引き取ってもらうことが出来なかった。

また、残った品を見ると、景品・記念でもらったものが多く、箱にも入っていない。

- ・ 食器を扱っている事業者へヒアリングを行なったところ、箱入り・お店で購入したようなものでないと商品化は難しいとのことだった。しかし、食器はイベント内での持ち込み・持ち帰り量ともに大きかったためリユース率が高い。毎回保管するための場所も必要となってくる。

“食器・日用品持ち帰りのみ”の日を設け、食器・日用品リユースのみ促すなど。

- ・ 全て廃棄（リサイクル）に回ったリユース品「本」の取り扱い。

今回の結果から、町民同士のリユース後にはリユース事業者で取り扱えるような品質のものが残らないことが分かった。今後は、リユース事業者ではなく、リサイクル事業者と連携することも考える必要がある。

(3) 今後の予定

- ・ 年2~3回、イベント形式で行なう。

第3回は前日の天候（大雪）の影響もあったと考えられるが、事前準備の量などを考慮すると、月に1度は多い。

- ・ 本事業により関係構築できた事業者と今後も連携していく。

本事業の結果を踏まえ、リユースの取り組みを推進する。

第2章 平成24年度・平成23年度モデル事業のフォローアップ調査

I. 平成24年度モデル事業 フォローアップ調査

1. 平成24年度モデル事業の概要

市町村とリユース事業者や市民団体・NPO等とが連携し、リユースを促進するためのモデル事業を実施した。平成24年度は、愛知県大府市、大阪府泉大津市、東京都町田市の3地域においてモデル事業を実施し、各地域のプランの概要は以下の通りである。

平成24年度市町村におけるリユースモデル事業の概要

	愛知県大府市	大阪府泉大津市	東京都町田市
名称	使用済小型家電における宅配リユース及びリサイクルの可能性検討事業	リユースでエコ生活～第2弾～	持ち込みごみのリユース促進事業
プランの概要	宅配リユース事業の回収ルートにて小型家電対象96品目を回収する。回収した小型家電はリユース可能なものはリユース品として宅配リユース事業者が買取し、リユース不可なものは再資源化業者がリサイクルする。 市民にとっては、買取れない小型家電もリサイクル品として処分され利便性が高い。	市民団体と協力して、市のホームページ及び市庁舎内に設けられた掲示板に市民の「家庭で使えなくなったもの(不用品)」について情報を掲載する。掲載情報を見て不用品が必要な方は市へと連絡し、市は引き渡しのあっせんを行う。また、気軽にリユース品の売買が行える「Yahoo!バザール」の利用を市民に情報提供、リユースを促す事業を同時に実施。	月に1回「リユースの日」を設定し、粗大ごみを回収する場所にて市民からのリユース品の引き取りを実施する。リユース事業者と連携することでリユースできる品目の拡大を目指す。 市民はリユース可能と判断された場合、無償で引き渡すことができる。(リユース不可の場合でも粗大ごみとして処理し、再度の持ち込みは不要)
リユース対象品目	・小型家電対象96品目 (ただし、宅配で送れるもの)	・粗大ごみとして収集できるもの(電化製品を除く) ・衣類/など	・古着 ・家具 ・家電 ・レジャー用品など/など
役割分担	【行政】小型家電の宅配リユース・リサイクルの仕組みを広報 【民間企業】既存の宅配リユースの仕組みの中にリユース・リサイクル両方の製品を引き取る新しい引取方法を実施	【行政】市のホームページ及び掲示板に「不用品のあっせん」を掲載 【市民団体】広報・宣伝等で連携	【行政】「リユースの日」を設定し、リユース可能なものを無償回収 【民間企業】リユース可能なものを引き取り
モデル事業成果・課題	市民にとって利便性が高く862件の申し込みがあった。一方で、リユースの成約件数が4件と少なかった。 リユース品の掘り起こしが今後の課題である。	ホームページを利用することで地域内でのリユースが促進された。今後は不用品あっせん掲示板の認知度を高めて、提供者及び需要者双方を増やしていく必要がある。	ごみ減量効果がみられるとともに、事業者との連携のための関係が構築できた。対象品目の設定や効率的な「リユースの日」の開催方法を検討していく必要がある。

平成18年3月25日付け、「『規制改革・民間開放推進3か年計画』(平成16年3月19日閣議決定)」において平成16年度中に講ずることとされた措置(廃棄物処理法の適用関係)についての通知に基づく試験研究として大府市が承認した事業として実施。

2 . 平成 24 年度モデル事業実施地域の動向

平成 24 年度モデル事業を踏まえた各地域での取組状況について整理する。

図表 20 モデル事業を踏まえた平成 25 年度取組状況

	愛知県大府市	大阪府泉大津市	東京都町田市
モデル事業の 継続状況	継続なし モデル事業での小型電子機器の収集実績を踏まえて、小型家電リサイクル事業を実施	継続して実施 不用品あっせん掲示板を引き続き運用	継続なし 「リユースの日」は継続せず、新たな取り組みを模索中。リユース事業者と連携し、フリーマーケットにおける「共同出品コーナー」を開設。
変更・改善点	-	庁内での連携体制の強化（秘書広報課、環境課が連携して実施）	-

2.1 愛知県大府市

(1) モデル事業の成果と課題

小型家電をリユース・リサイクルのために宅配サービスで集荷してリユース促進を目指したが、862 件の宅配引取りの申込に対して、リユースの成約件数は 4 件のみであった。

約 2 か月のモデル事業期間中に大府市の世帯数の約 2.4% が利用した計算となり、1 回のちらし配布、2 回の広報誌への掲載（ともに全戸配布）、地元ケーブルテレビでの紹介といった広報活動により、毎日コンスタントに申し込みが継続した。また、当日集荷の利用率が 44% と高く、すぐに引取りに来てもらいたいというニーズの高さが伺えた。

このように、宅配サービスに対して多くの市民からの申込があり、すぐに取りに来てもらうという利便性に市民がメリットを感じていることが判明した一方で、リユースの成約件数が少なかった理由としては、「リユースに適さない 10 年以上経過した家電製品が大半」、「リサイクル回収と比べてリユース回収の方が手間のかかるため敬遠された」といったことが挙げられた。また、委員からは「リユースの認知度の低さ」もリユースに適さない家電製品が大半であったという指摘をいただいた。今後、リユースの認知度が高くなれば、リユース品がより集まってくる可能性がある。

「10 年以上経過した家電製品が大半」ということであり、退蔵していた家電製品がモデル事業を通して排出されたことが考えられる。

大府市では後述するように、今年度から小型家電リサイクル事業に取り組んでいる。小型家電リサイクル事業の取組で退蔵していた家電製品の排出が一巡した後は、リサイクルのみならず、リユースを促進するために「リユースを中心とした訴求の検討」しておくことが必要なのではないか。

(2) モデル事業の成果の活用状況

モデル事業の成果を活用して、大府市では小型家電リサイクル事業に取り組んでいる。

1) 大府市

小型家電リサイクル事業実施にあたって、「小型家電の回収品目の設定」、「小型家電の回収拠点数の検討」、「広報・啓発の実施」の3点に際して、モデル事業の成果を活用した。

小型家電の回収品目は、「使用済小型電子機器等の回収に係るガイドライン」において指定されている16分類から30品目に絞り込んで実施している。この30品目はモデル事業を行った際に回収量が多かった品目を中心に選定した。他地域がパソコンの回収を行わないことが多い中で、昨年度の実績を踏まえて、パソコンを品目に加えている。

モデル事業のアンケート結果より、利便性が高いことが市民の小型家電の排出・引渡しを進めていく際に重要であるということが分かった。小型家電リサイクル事業の実施に際しては、回収拠点の数をなるべく多く設定するとともに、引き続き、利便性を高めていく方針であり、モデル事業の連携民間事業者（ネットオフ株式会社）の使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律に係る再資源化事業計画の認定に合わせて、宅配サービスでの回収も検討している。

加えて、リユースモデル事業を通じて、市民に不用品をきちんとしたルートに排出することがよいという意識を広報することが出来た。小型家電リサイクル事業を実施する際にも、昨年度からの啓発が活かされ、回収量確保に繋がっていると考えられる。

図表 21 使用済小型電子機器等リサイクル事業のちらし

使用済小型電子機器等 回収にご協力ください。

平成25年 **7月1日(月)**から回収開始!

回収するもの

A Cアダプタ※コンセントケーブル類は全て可
カーラジオ/カーステレオ/カーCDプレーヤ/カーMD/
カーDVD/カーナビ/カーナビユニット
ETC搭載ユニット/VICSユニット/
カーナビゲーションシステム

カメラ、デジタルカメラ (使い捨てカメラは不可) ●ビデオカメラ (放送用を除く)
●携帯電話 ●PHS端末 (公衆用)
ゲーム機 (携帯型/家庭型)
DVD/ビデオカメラ
801規格/ミニDV
C型デジタルビデオ
地上デジタルテレビ
ICレコーダ
携帯用音楽プレーヤ (放送用を除く)
デジタルオーディオプレーヤ (CD/MD)
デジタルオーディオプレーヤ (フラッシュメモリ、SDカード)
電子辞書 (電車は不可)

電球、蛍光灯
ライター
トナーカートリッジ
インクカートリッジ
乾電池
電池パック
FD/CD/MD/DVD
カセットテープ/ビデオテープ
※燃やせるごみへ

回収できないもの

家電リサイクル法対象製品
(テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機、空気清浄機)
は、法律に基づいて処理してください。

回収する30品目

- ICレコーダー ●A Cアダプタ※コンセントケーブル類は全て可
- カーナビ ●カーチューナ ●ETC搭載ユニット ●VICSユニット
- カーナビゲーションシステム ●カーラジオ ●カーステレオ ●カーCDプレーヤ
- カーMD ●カーDVD ●ゲーム機 (携帯型) ●ゲーム機 (家庭型)
- カメラ、デジタルカメラ (使い捨てカメラは不可) ●ビデオカメラ (放送用を除く)
- 携帯電話 ●PHS端末 (公衆用) ●DVD/ビデオデッキ ●Bレコーダ/プレーヤ
- CSデジタルチューナ ●地上デジタルチューナ ●携帯用音楽プレーヤ (CD/MD)
- デジタルオーディオプレーヤ (HDD)
- デジタルオーディオプレーヤ (フラッシュメモリ、SDカード)
- 電子辞書 (電車は不可) ●電球 ●電池 ●電池パック/ノートブック型)

回収する場所

施設名	住所	電話番号
大府公民館	大府市中央町四丁目195	(0562)48-1007
横根公民館	大府市横根町平地295	(0562)46-7722
神田公民館	大府市神田町三丁目115	(0562)46-2620
北山公民館	大府市梶田町六丁目274	(0562)48-6015
東山公民館	大府市追分町二丁目341	(0562)47-1498
共長公民館	大府市共和町二丁目8-2	(0562)46-4931
長草公民館	大府市明成町二丁目60	(0562)48-5444
吉田公民館 (旧長瀬公民館センター)	大府市高丘町二丁目2	(0562)46-2123
森岡公民館	大府市森岡町四丁目7	(0562)46-0435
石ヶ瀬会館 (長瀬公民館)	大府市江崎町四丁目1	(0562)48-0588

※開館時間内にお持ちください。
※大府市産業まつりでも回収します。

お問い合わせ先 大府市役所市民協働部環境課 TEL: 0562-45-6223

2) 民間連携事業者 (ネットオフ株式会社)

モデル事業で、一定量の小型家電が収集できたという成果を踏まえて、小型家電リサイクル事業に参入し、関連会社であるリネットジャパン株式会社 (認定番号 第 24 号、認定年月日 平成 26 年 1 月 23 日) にて宅配サービスによる小型家電の回収を実施する予定である。

「リユース」目的だけでは引き取れる品目・商品が限られてしまうため、「リサイクル」と合わせて回収することで、ユーザーにとって手間のかからないリユース品の回収に繋がるのではないかと期待されており、捨てるよりも便利な「市民からの宅配回収」を行っていく予定である。(市民からの直接の回収以外にも「大口回収が難しい自治体向けの宅配回収」も実施予定)

(3) モデル事業による波及効果

モデル事業実施に伴って、「不用品回収業者の減少」、「宅配回収の取組の他自治体への発信」といった波及効果が見られる。

昨年度のモデル事業及び小型家電リサイクル事業で小型家電を回収することで、大府市内の不用品回収業者の減少に繋がっている。小型家電の宅配回収、拠点回収を行ったことで、集まる不用品の数が減って商売がやりにくくなっていると、不用品回収業者から聞いている。同市では以前は 4 つの不用品回収業者の拠点があったが、1 つは閉鎖、1 つは事業所の片づけを行っている。モデル事業及び小型家電リサイクル事業事態で集まった回収量は限定的であるが、市民に対して、不用品回収業者ではなく市が案内する正規ルートに出すように促していったのが、不用品回収業者の減少につながったのではないかと考えられる。

また、宅配回収という先進的な取り組みを行ったので、小型家電の回収に関して、他の市町村からの問い合わせ・視察などを受けるようになってきている。新聞・雑誌等の取材を受けて情報発信を行っている。

(4) (補足) 平成 24 年度モデル事業の費用・役割分担について

宅配料金等の詳細は、輸送業者との守秘義務契約のため、開示することが出来ないが、大口の配送をお願いすることで通常よりは安く回収できるようになっている。

また、同市が作成したモデル事業報告書では、下記のような収支の報告を行っているが、支出の 1,315,648 円は、宅配送料と仕分け人件費等であり「ランニング・コスト」の部分である。

環境省モデル事業として支援を受けた全戸配布を行った「ちらし作成・配布費用」1,127,994 円は別途追加的費用として必要になる。

民間事業収支試算		申込件数からの概算 (税抜)	
収入	:	139,972 円	(リサイクル 128,075 円、リユース 11,897 円)
支出	:	1,315,648 円	(宅配送料、仕分け人件費、コールセンター人件費、電話代等)
限界利益	:	1,175,676 円	

これは、普及啓発費用は、一過性の支出であると考えているためであり、「ランニング・コスト」について、事業性の試算として算出したものである。「ちらし作成・配布費用」を加えると、230万円程度の費用が必要となってくる。

また、行政の廃棄物処理費用削減効果を試算すると、3月6日掲示の環境省「小型家電の回収に係るガイドライン」を参考に試算した場合、

$17,061 \text{ kg} \times \text{破碎処理単価 } 32 \text{ 円/kg} = 545,952 \text{ 円} \cdot \cdot$
$17,061 \text{ kg} \times \text{焼却処理量 (41\%)} \times \text{焼却処理単価 } 22 \text{ 円/kg} = 153,890 \text{ 円} \cdot \cdot$
$17,061 \text{ kg} \times \text{埋立処分量 (29\%)} \times \text{埋立処分単価 } 47 \text{ 円/kg} = 232,541 \text{ 円} \cdot \cdot$
$17,061 \text{ kg} \times \text{リサイクル量 (30\%)} \times \text{鉄買取単価 } 7 \text{ 円/kg} = 35,828 \text{ 円} \cdot \cdot$
$+ \quad + \quad - \quad = 896,555 \text{ 円の廃棄物処理費削減につながったと試算できる。}$

従って、市として全体での収支は、-1,175,676円+896,555円で、279,121円のマイナスとなる。但し、リユースの拡大や回収コストの削減（宅配費用削減、ネット申込化など）、利便性の対価として市民から処理費徴収を検討するなど、社会を構成するメンバー内で適正に負担を分散させることで、従来以下の費用で資源循環に繋げていく可能性も考えられる。

2.2 大阪府泉大津市

(1) モデル事業の成果と課題

泉大津市では、市民団体によって市庁舎内に設けられた不用品あっせん掲示板『こちら、ゆずります！』について、市ホームページからの申請・閲覧を可能にするなどの改善を行うことで、不用品のリユース促進及び市民の意識啓発を図った。平成 24 年度の利用実績は、登録件数 56 件、成立件数 24 件と 23 年度実績（登録 44 件、成立 17 件）を上回り、市民の利用が促進される結果であった。

また、「Yahoo! JAPAN」が実施している「Yahoo! バザール」についても、登録をサポートするなどして利用の促進を図ったが、登録手続きの煩雑さなどが課題となって市民への浸透は限定的であった。（Yahoo!バザールは同社がサイトを閉鎖したことから、現在は取組みも終了している）

この他、平成 23 年度モデル事業として、市内のリユースショップ一覧をチラシにして市民に配布し、利用を促進する取組みを実施している。

(2) モデル事業の成果の活用状況

1) 平成 24 年度モデル事業の成果の活用状況

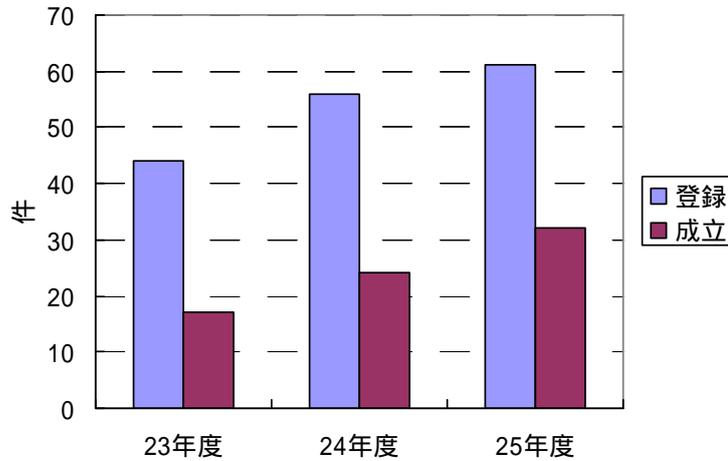
平成 24 年度モデル事業として取り組んだ不用品あっせん掲示板及び Yahoo! バザールのうち、不用品あっせん掲示板の取組みを継続して実施しており、管轄は秘書広報課が、広報・啓発活動は環境課が担当し、両課が連携しながら市民による利用促進を図っている。

不用品あっせん掲示板の利用者数は、25 年度の登録件数は 61 件、成立件数は 32 件と、前年度実績を上回り、モデル事業により市ホームページからの利用が可能になったことで引き続き利用者数が増加している。

利用上の課題としては、一部、不用品を希望した市民に登録者の連絡先を伝えたにも関わらず、登録者に連絡がないという苦情があったが、その他は特に問題もなく、ベビー用品等を中心に市民の利用が浸透しつつある。

今後はモデル事業を通して構築された仕組みを、より多くの市民に広め、利用者数をさらに増やしていくことが課題である。

図表 22 不用品あっせん掲示板の登録・成立件数の推移



2) 平成 23 年度モデル事業（リユースショップの紹介）の成果の活用状況

泉大津市では、平成 23 年度モデル事業として、市内のリユースショップ一覧をチラシにして市民に配布し、利用を促す取組みを実施した。

事業終了後には、粗大ごみの申し込み時に電話で紹介する形で引き続き取組みを継続していたが、粗大ごみとして申し込む市民は廃棄する意思が固いことや、リユースショップに問い合わせたとしても必ず買い取ってもらえるとは限らないことなどから市民の反応が芳しくなく、平成 25 年度からは引越しごみ¹の申し込み時に切り替えてリユースショップの紹介を行っている。紹介するリユースショップは、泉大津市内にあるリサイクルショップ「リサイクルマート」、岸和田市にある「セカンドストリート」など市民がアクセスしやすい近隣の店舗に絞って紹介を行っている。

引越しごみは粗大ごみに比べ点数が多いことから、リユースを行うことで粗大ごみの廃棄費用を削減できるメリットが生じる可能性が高くなることが期待されているが、リユースショップの買い取りまでに自宅での保管期間が生じることや、査定の際に自宅にリユースショップの店員が立ち入ることに対する市民の抵抗感などが依然として課題になっており、多くの市民が利用する状況には至っていない。

今後は、ごみとして廃棄する以前の段階における市民のリユース行動に働きかける取組みを新たに実施することや、市との連携等によりリユース事業者に対する市民の安心感を確保していくことが必要であると考えられる。

¹ 粗大ごみは一回の申し込みでの引き取り点数が 6 点までと定められており、6 点以上は引越しごみとなる。

2.3 東京都町田市

(1) モデル事業の成果と課題

町田市では、2012年12月から2013年2月までの3ヶ月間、毎月「リユースの日」を設定し、町田市の外郭団体である「まちだエコライフ推進公社」とリユース業界の協力を得て、使用済み製品のリユース事業を実施した。

「リユースの日」で市民から回収された不用品は、古着、スポーツ用品、家電類を中心に合計576件、約7.5tとなり、そのうち約4.6tがリユース事業者によって引き取られる結果となった。

市民からのモデル事業に対する反響は大きく、事業終了後もしばらくは次回開催についての問い合わせが多数あり、不用品の持ち込みに対する市民のニーズの高さを伺うことができた。

一方で、事業の実施主体であるまちだエコライフ推進公社の収益性が低いことや、市民から持ち込まれた物のうち予想以上に多くの物を廃棄せざるを得なかったことから、市としては同様の形での取り組みは継続していない。

特に懸念されているのが、このような場があることで却って市民の廃棄行動を促進してしまうことである。リユースの日への不用品提供を、清掃工場への直接搬入ごみと同等に認識していると思われる市民も少なくなく、リユースの日の目的はリユース促進であることを改めて理解してもらわなければ、廃棄物の増加につながってしまうために、市が不用品を広く受け入れるような取り組みは継続が難しいと考えられる。

(2) モデル事業の成果の活用状況

町田市ではモデル事業の成果を踏まえ、引き続きリユース事業者との連携方法を模索している。

平成25年度には、まちだエコライフ推進公社が主体となって開催したフリーマーケット「まちエコフリーマーケット」において、新たにリユース事業者と連携した取組み「共同出品コーナー」を設けた。

「共同出品コーナー」は、「商品となる品物が少なく、単独で出店できない市民が出品」「まちだエコライフ推進公社が販売を請け負う」「売れ残ったものからリユース事業者が買い取り可能な物を買取り」「残ったものを出店者が引取る」という仕組みになっている。

品物の取引はフリーマーケットの方式であるため、不用品を提供する市民には最後に物を引き取る責任が残り、廃棄物を誘発することなく実施することができたが、対象品の数が減少してしまったことで、実際には売れ残った物からリユース事業者が買い取った物はなく、連携方法としては課題が残った。

市民にリユースの趣旨を理解してもらったうえで広く不用品を回収し、リユース業者がリユースできるもの、公社がリユースできるものを役割分担する仕組みを構築していくことが今後の課題であると考えられる。

II. 平成 23 年度モデル事業フォローアップ調査

1. 平成 23 年度モデル事業の概要

平成 23 年度モデル事業においては「地域内事業者リスト方式」、「市町村回収後選別方式」の 2 方式を実証した。

地域内事業者リスト方式は、愛知県大府市、大阪府泉大津市、群馬県明和町、東京都世田谷区、4 市区町において、市町村回収後選別方式は、神奈川県秦野市、京都府綾部市、2 市において、いずれもリユース事業者の協力を得て、モデル事業を実施した。

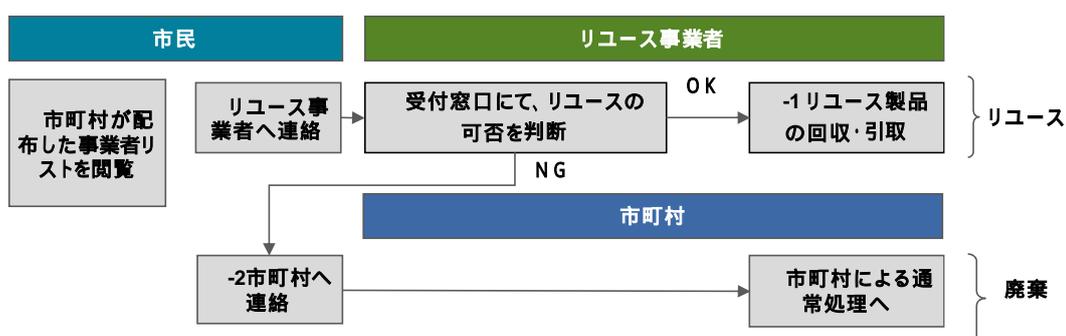
1.1 地域内事業者リスト方式の概要

市町村が、地域内のリユース事業者を選定し、店舗の概要、買取基準、利用方法等を紹介するちらし等を作成、各世帯に配布する。使用しないまま保管されている製品などをごみとして出す前に、リユース事業者の活用を促す。

(具体的な情報・製品の流れ(イメージ))

市民が市町村から配布されたちらし等を閲覧し、リユース事業者へ直接・連絡をする。リユース事業者はリユース品として買取可能な場合は、回収・買取を行い、買取ができない場合には、市民に改めて市町村へ粗大ごみ等処理の連絡を依頼する。

リユース品としての買取方法は、店頭買取(市民が店舗に持参する)、出張買取(リユース事業者が市民宅に訪問する)、宅配買取(製品を宅配便で送る)の 3 つの方法が考えられる。



図表 23 地域内事業者リスト方式のモデル事業の概要（平成 23 年度の実施概要）

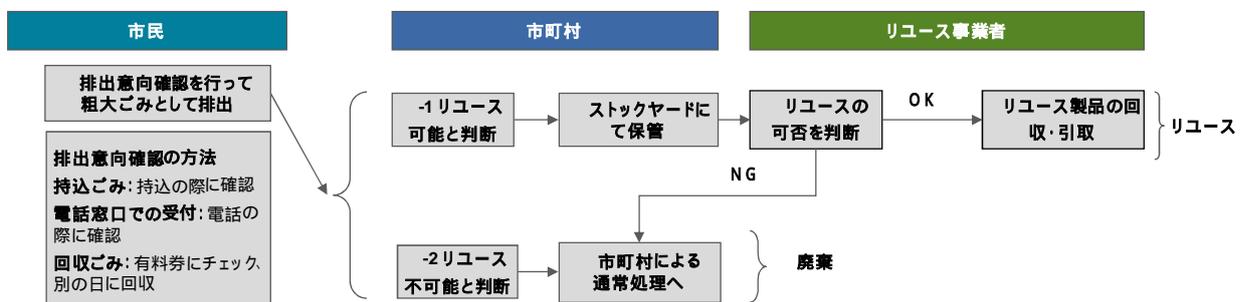
	人口・世帯数	モデル事業の概要
愛知県大府市	人口 8.6 万人 3.5 万世帯	【地域内事業者リスト方式】 ・市内・近隣地域に立地するリユース事業者、市民が利用できる宅配型リユース事業者を紹介（12 店舗）。店頭買取、出張買取、宅配買取の状況を実証。
大阪府泉大津市	人口 7.7 万人 3.3 万世帯	【地域内事業者リスト方式+相談窓口設置】 ・市内・近隣地域に立地するリユース事業者を紹介（2 店舗）。店頭買取、出張買取の状況を実証。 ・市に相談窓口を設置し、ちらしを見た市民からの質問・相談等に対応し、適切な利活用を促した。
群馬県明和町	人口 1.2 万人 0.4 万世帯	【地域内事業者リスト方式+相談窓口設置】 ・近隣地域に立地するリユース事業者を紹介（1 店舗）。店頭買取、出張買取の状況を実証。 ・町に相談窓口を設置し、ちらしを見た町民からの質問・相談等に対応し、適切な利活用を促した。
東京都世田谷区	人口 83.9 万人 43.7 万世帯	【地域内事業者リスト方式】 ・区内・近隣地域に立地するリユース事業者、区民が利用できる宅配型リユース事業者を紹介（24 店舗）。店頭買取、出張買取、宅配買取の状況を実証。

1.2 市町村回収後選別方式の概要

市町村が粗大ごみ等として回収した物について、リユース事業者が市町村のストックヤード等で検品し、リユース品として買い取りできると判断したものを市町村から買い取る。

（具体的な情報・製品の流れ（イメージ））

市民から「リユースしてもよい」との意向を確認できた粗大ごみ等のうち、市町村がリユース可能と考えられるものを選別・ストックヤードで一時保管する。保管したもののうち、リユース事業者がリユース可能だと判断した製品を回収・引取る。リユース不可と判断された製品は通常の粗大ごみ等の処理を行う。



図表 24 市町村回収後選別方式のモデル事業の概要（平成 23 年度の実施概要）

	人口・世帯数	モデル事業の概要
神奈川県秦野市	人口 17.0 万人 7.0 万世帯	【市町村回収後選別方式（自己搬入）】 ・市民から自己搬入された粗大ごみのうち、リユース品として買取可能性があるものを担当者が一次選別し、保管。 ・一次選別された製品を、リユース事業者が査定し、リユース品として買取できるものを市から購入。 ・リユースに対する意向は、自己搬入粗大ごみの受付時に、リユース同意書へ署名してもらうことで確認。
京都府綾部市	人口 3.6 万人 1.4 万世帯	【市町村回収後選別方式（戸別収集+自己搬入）】 ・戸別収集する粗大ごみ等、市民から自己搬入された粗大ごみ等の中から、リユース品として買取可能性があるものを担当者が一次選別し、保管。 ・一次選別された製品を、リユース事業者が査定し、リユース品として買取できるものを市から購入。 ・戸別収集は排出する市民立ち会いのもと実施されるため、リユースに対する意向は収集時に確認。

2 . 平成 23 年度モデル事業実施地域の動向

2.1 地域内事業者リスト方式

平成 23 年度モデル事業を踏まえた、各地域の取組み状況について整理する。地域内事業者リスト方式は、2 地域が継続実施（明和町、世田谷区（更新準備中））、2 地域（大府市、泉大津市）が事業を継続せず、新たなリユース促進に向けた新たな取り組みの実施となっている。

図表 25 モデル事業を踏まえた平成 24 年度の取組状況（地域内事業者リスト方式）

	愛知県大府市	大阪府泉大津市	群馬県明和町	東京都世田谷区
モデル事業の継続状況	継続なし -	一部変更して継続 引越しごみの申込時にリユースショップを紹介	継続して実施中 平成 23 年度モデル事業の成果を踏まえて継続	継続して実施中 リスト更新して、実施中
変更・改善点	-	粗大ごみの受付時だけではなく、引越しごみの申込時にリユースショップを紹介	特になし。継続して住民に広報を実施。	業界団体の協力を得て、リストの更新・追加作成は NPO に委託

(1) 愛知県大府市

平成 23 年度のモデル事業の成果・実績を踏まえ、新たな取組として平成 24 年度モデル事業を実施した。平成 25 年度は、平成 24 年度モデル事業の成果を活かして、小型家電リサイクル事業に取り組んでいる。連携しているネットオフ株式会社は平成 23 年度モデル事業でも連携したリユース事業者である。

(2) 大阪府泉大津市（再掲）

平成 23 年度モデル事業として、市内のリユースショップ一覧をチラシにして市民に配布し、利用を促す取組みを実施した。事業終了後には、粗大ごみの申し込み時に電話で紹介する形で引き続き取組みを継続していたが、粗大ごみとして申し込む市民は廃棄する意思が固いことや、リユースショップに問い合わせたとしても必ず買い取ってもらえるとは限らないことなどから市民の反応が芳しくなく、平成 25 年度からは引越しごみ²の申し込み時に切り替えてリユースショップの紹介を行っている。紹介するリユースショップは、泉大津市内にあるリサイクルショップ「リサイクルマート」、岸和田市にある「セカンドストリート」など市民がアクセスしやすい近隣の店舗に絞って紹介を行っている。

引越しごみは粗大ごみに比べ点数が多いことから、リユースを行うことで粗大ごみの廃棄費用を削減できるメリットが生じる可能性が高くなることが期待されているが、リユースショップの買い取りまでに自宅での保管期間が生じることや、査定の際に自宅にリユースショップの店員が立ち入ることに対する市民の抵抗感などが依然として課題になっており、多くの市民が利用する状況には至っていない。

今後は、ごみとして廃棄する以前の段階における市民のリユース行動に働きかける取組みを新たに実施することや、市との連携等によりリユース事業者に対する市民の安心感を確保していくことが必要であると考えられる。

(3) 群馬県明和町

平成 23 年度のモデル事業の成果・実績を踏まえて、平成 24 年度、平成 25 年度も継続して事業を実施している。また、今後も継続して実施していく予定である。

明和町の 3R の進め方の方針の 1 つとして、「リユースショップの活用」を位置づけており、広報紙等での啓発・PR を継続している。

連携先であるオフハウス館林店から毎月の明和町での利用者数の報告を受けており、平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月で 804 人、67 人/月の利用があった。平成 25 年 3 月～平成 25 年 12 月で 564 人、63 人/月の利用があった。継続して月平均 60 人以上の利用者がいる。ただし、利用状況は人数でのカウントであり、1 人から複数製品の買取りを行うこともあるため、買取りされた製品数とは一致しない。

また、平成 24 年度から小型家電リサイクルを実施している。町内に 2 ヶ所回収拠点を設けて、住民に持参してもらう。ある程度回収量が貯まったところで認定事業者に引き渡し・リサイクルを行っている。同回収拠点に持ち込まれる小型家電の中には、まだリユース品として利用できそうなものも含まれており、小型家電の排出に際しても、リユースショップの活用を促している。

² 粗大ごみは一回の申し込みでの引き取り点数が 6 点までと定められており、6 点以上は引越しごみとなる。

(広報めいわ 平成 25 年 10 月号)

<p>粗大ごみの減量化および計画的な搬入に協力してください</p> <p>町では、粗大ごみの減量化を図るため「小型家電製品」のもつたいない館での分別収集やリユースショップの積極的な活用を推進しています。また毎年12月は、大掃除の影響などから粗大ごみの搬入に大変混雑が予想されますので、搬入時期の調整や搬入カードの事前記入など、計画的な搬入に協力をお願いします。</p> <p>※「小型家電製品」とは、家庭用の電化製品です。電池や蛍光管などは外して出してください。</p>	<p>先</p> <p>(テレビ・エアコン・冷蔵庫・冷凍庫・洗濯機・パソコンを除く。) リユースショップについての問合せ</p> <p>オフハウス館林店 館林市近藤町1-78番地96 (☎76・9009) 問合せ先 環境水道課(内線172)へ。</p>
--	---

(4) 東京都世田谷区

平成 23 年度のモデル事業の成果・実績を踏まえて、平成 24 年度にモデル事業で作成・配布したちらしの情報更新を行った。ちらしの配布は平成 25 年度に実施した。

ちらしの更新は、区の 2R 事業の一環として NPO に委託し作成した。3つの業界団体に依頼し、掲載店舗を紹介していただいた上で掲載を行った。

作成した「リユースショップ情報」は5,000部印刷して、出張所、まちづくりセンターに設置するとともに、ごみ減量・リサイクルの普及・啓発施設である「エコプラザ用賀」のリユースコーナーで家具等を引取った区民にも配布している。また、平成 25 年 4 月 1 日よりウェブページで公開している。

平成 27 年度から新しい「世田谷区一般廃棄物処理基本計画」の計画年度となり、平成 26 年度は今後の 10 年間の世田谷区のごみ・リサイクル政策を検討する年となる。基本計画の中では、引き続き「2R」に力を入れていく予定であり、リユース促進にも取り組んでいく方針である。

図表 26 リユースショップ情報 (計 8 ページ、一部抜粋)

不用品情報ボード

世田谷区では不用品の有効利用のためエコプラザ用資、リサイクル千歳台に情報ボードを設置しています。

- 品物を譲りたい方は「譲ります」の用紙に、譲って欲しい方は「譲ってください」の用紙に記入してください。
- 用紙は2階設の情報ボードに2ヶ月間残ります。
- 掲示できるものは、希望価格が無料又は3万円以内の品物に限ります。食料品、医薬品、動物用、貴金属類、その他社会通念上及び不適切な品物は掲示できません。
- 情報ボードは不特定多数の方がご覧になります。そのことをご了承の上での利用をお願いします。

詳細は下記にお問い合わせください。

- お問い合わせ・申込先
エコプラザ用資
 ☎ 03-3708-4081
 FAX 03-3708-4082
 所在地: 用資 4-7-1
- リサイクル千歳台
 ☎ 03-5490-1020
 FAX 03-5490-3267
 所在地: 千歳台 1-1-5

※いずれも月曜休館 (祝日にあたる場合は翌日)

リユースショップ

を活用してみませんか?



リユースショップとは中古品を取り扱う店舗のことで、外観や使用年数などの条件が合えば、ご家庭で使わなくなった製品を中古品(リユース品)として買い取ってくださいます。
※リユース(Reuse)とは、「くり返し使う」という意味です。
リユースは、環境に優しく、またご家庭の財布にも優しい取り組みです。この機会にリユースショップを活用してみませんか?

世田谷区

リユースショップでこんな楽しみ方あり?

各種講座・講習会

家具やおもちゃの修理をはじめ、ものを大切にするための講座・講習会を行っています。イベント内容は、毎月発行の「エコ通信 (ごみ減量・リサイクル普及啓発施設情報誌)」をご覧ください。

※「エコ通信」は出張所、区役センター、図書館、児童館など区内97か所の公共施設でお配りしています。

家電リサイクル法の対象品

エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機の家電4品目が対象です。購入店または買い替え店に引き取りを依頼するか、下記にお申し込みください。

- 申込先 **家電リサイクル受付センター**
 ☎ 03-5296-7200

※リサイクル料金と収集運搬料が必要です。収集運搬料金は事前に家電リサイクル受付センターにご相談ください。

粗大ごみ

粗大ごみに出せるのはおおむね30cm角以上のものです。大きさによ料金が高くなりますので寸法を測ってからお申し込みください。

- 申込先 **世田谷区粗大ごみ受付センター**
 ☎ 03-5715-1133

受付時間/月～土曜 午前8時～午後9時
祝日も申し込みます。(日曜、年末年始を除く)
■ インターネット申込
 区のホームページ (24時間・年中無休)
 インターネットから申し込み → [粗大ごみ受付センター](#)
 ※携帯電話・スマートフォンからも申し込みできます。

家庭用のパソコン

各メーカーにお申し込みください。自作パソコンやメーカー不調の場合は、下記にお問い合わせください。

- お問い合わせ
 一般社団法人 パソコン3R推進協会
 ☎ 03-5282-7685

お問い合わせ先

世田谷区環境・リサイクル部課課 ☎ 03-5432-2828 FAX 03-5432-3058
 世田谷区のホームページ <http://www.city.setagaya.lg.jp/>

くらしのガイド | 暮らし・手続き | **ごみ・リサイクル** | とも情報がおこなわれます。

再生紙を使用しています

世田谷区近隣のリユースショップをご紹介します!

※本リストはリユース品の流通を促進に向けた取組を実施している3つの業界団体の会員企業を掲載したリストです。店舗情報は変更となる可能性があります。

店名	住所・営業時間	取扱品	取扱い品
衣料品・服飾品			
ジャンブルストア	下北沢店 〒107-8555 世田谷区下北沢2-26-11 ☎ 03-5452-0320 ☎ 03-5452-0320 ※平日11時～午後7時 休館	洋服、靴、小物	※ 買取価格 洋服・靴・小物・バッグ・財布 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
トレジャーファクトリースタイル	高円寺1号店 〒158-8501 世田谷区高円寺1-1-1 ☎ 03-5325-3356 ☎ 03-5325-3356 ※平日11時～午後7時 休館	洋服、靴、小物	※ 買取価格 洋服・靴・小物・バッグ・財布 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
モードオフ	高円寺店 〒158-8501 世田谷区高円寺1-1-1 ☎ 03-5325-3356 ☎ 03-5325-3356 ※平日11時～午後7時 休館	洋服、靴、小物	※ 買取価格 洋服・靴・小物・バッグ・財布 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
コムズ買取センター渋谷	〒150-0001 世田谷区渋谷1-1-1 ☎ 03-3464-0288 ☎ 03-3464-0288 ※平日11時～午後5時 休館	洋服、靴、小物	※ 買取価格 洋服・靴・小物・バッグ・財布 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
スポーツ用品			
ゴルフパートナー	世田谷通り店 〒158-8501 世田谷区下北沢2-26-11 ☎ 03-5452-0320 ☎ 03-5452-0320 ※平日11時～午後7時 休館	ゴルフ用品	※ 買取価格 ゴルフ用品 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
タックルベリー	高円寺店 〒158-8501 世田谷区高円寺1-1-1 ☎ 03-5325-3356 ☎ 03-5325-3356 ※平日11時～午後7時 休館	釣り用品	※ 買取価格 釣り用品 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
パソコン・携帯電話			
パシフィックネット(パソコン買戻)	〒150-0001 世田谷区渋谷1-1-1 ☎ 03-3464-0288 ☎ 03-3464-0288 ※平日11時～午後5時 休館	パソコン	※ 買取価格 パソコン ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。
アールモバイル 秋葉原店	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 ☎ 03-5297-1404 ☎ 03-5297-1404 ※平日11時～午後7時 休館	携帯電話	※ 買取価格 携帯電話 ※ 買取方法・備考 買取対象品は買取価格に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。 ※ 買取対象品は買取価格 に なります。買取価格の 変動により買取価格が 変動する場合があります。

(出所) 世田谷区ウェブサイト (<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/101/113/262/d00026433.html>)

2.1 市町村回収後選別方式

平成 23 年度モデル事業を踏まえた、各地域の取組み状況について整理する。市町村回収後選別方式は、いずれの地域（秦野市、綾部市）も継続して事業を行っている。

図表 27 モデル事業を踏まえた平成 24 年度の取組状況（地域内事業者リスト方式）

	神奈川県秦野市	京都府綾部市
モデル事業の継続状況	継続して実施 平成 23 年度モデル事業で一定の効果が得られたため、平成 25 年度も継続して実施	継続して実施 平成 23 年度モデル事業で一定の効果が得られたため、平成 25 年度も継続して実施
変更点・改善点	平成 24 年度に以下の点を改善 ・リユース承諾書の書式変更 ・専用ストックヤードの設置	

(1) 神奈川県秦野市

平成 23 年度のモデル事業の成果・実績を踏まえて、平成 24 年度、平成 25 年度も継続してリユース事業者と連携した事業を実施している。今後も継続して実施していく予定である。

持ち込まれた粗大ごみからリユース可能と思われる製品を選別し、毎月 1 回の頻度でリユース事業者（オフハウス秦野店）に販売・引渡を行っている。平成 24 年度において、「リユース品専用のストックヤードの設置」、「リユース同意書の改良（粗大ごみ申込書と一体化させ複写式）」を改善・改良しており、平成 25 年度も継続して実施している。

持ち込まれた粗大ごみからリユース可能と思われる製品を、秦野市の清掃事業所において一次選別を行うが、リユース事業者が買い取れなかった製品の情報を、作業員の方へ継続してフィードバックを行ったことで、一次保管する精度が上がってきており、一次保管した製品の大部分をリユース事業者に買取ってもらえている。効率的な一次保管・買取ができている。

(リユースの実績)

モデル事業で実施した平成 23 年度（12 月～2 月末）、平成 24 年度、平成 25 年度（1 月未まで）のリユースの実績を整理する。期間計で、734 点のストックを行い、うち 616 点を 101,510 円でリユース事業者に売却をしている。

平成 25 年度は、4 月、8 月、11 月、1 月の 4 回買取りを実施しており、ストック数 241 点、うち 234 点を 46,190 円で売却している。買取不可の割合は減少傾向にあり、効率的な一次保管・買取ができていくことが伺える。

図表 28 平成 23～25 年度のリユース実績（秦野市）

	買取日	ストック数	買取数	買取額	買取不可数
1	平成23年度 (12,1,2月に買取)	61点	42点	8,300円	19点
2	平成24年度 (4,5,6,7,8,10,11,1月に買取)	432点	398点	47,020円	34点
3	平成25年度 (4,8,11,1月に買取)	241点	234点	46,190円	7点
	合計	734点	674点	101,510円	60点

オフハウス秦野店の買取りがあった時期を基準に集計している。例えば、平成 25 年 2～3 月にストックした分は、平成 25 年 4 月の買取りに含まれている。

図表 29 平成 25 年度のリユース実績（詳細）(秦野市)

	買取日	ストック数	買取数	買取られたもの	買取額	買取不可数	買取られなかったもの
1	平成25年 4月16日	63点	58点	クリアケース、パソコンデスク、籐引きだし、プランター、テーブル、食器棚、ガラステーブル、カラーボックス、棚、椅子、すのこ、木製引き出し、本棚、キッチンカウンター、キャスター付棚、キャンプ椅子、ミニコンボ、スピーカー、製図板、座椅子、テレビ台	7,800円	5点	ソファ、椅子、介護用風呂椅子、水槽、ギター
2	平成25年 8月14日	68点	67点	ガラステーブル、テーブル、タイヤチェーン、釣り竿、双眼鏡、ミラー、テーブルイス、籐タンス、カラオケ、望遠鏡、ごみ箱ケース、クリアケース、いす、引出ロッカー、ガラス3段タンス、引出7段、引出2段、桐セット、回転イス、丸イス、小物台、座イス、フレーム、小テーブル、パソコンデスク、インテリア、ギター、コンボ、スピーカー	14,520円	1点	弦の切れたギター
3	平成25年 11月7日	55点	55点	ガラステーブル、机、テレビボード、ソファ、カラーボックス、タンス、棚、エレキギター、ギター、お琴、車いす、バック、ミラー、ケース、額、小物入れ、収納ケース棚	8,270円	なし	
4	平成26年 1月29日	55点	54点	ソファ、ベッド、パソコンデスク、ギター、テレビ台、デスク&チェア、籐製棚、回転いす、テーブル、ワゴン、棚、スタンドミラー、イス、スチール棚、一輪車、籐イス、クリア衣装ケース、バッグ、タオル	15,600円	1点	健康器具
	合計	241点	234点		46,190円	7点	

(2) 京都府綾部市

平成 23 年度のモデル事業の成果・実績を踏まえて、平成 24 年度・平成 25 年度も継続してリユース事業者と連携した事業を実施している。

モデル事業終了後、平成 24 年 4 月以降も持ち込まれた粗大ごみからリユース可能と思われる製品を選別し、月 1 回～2 か月に 1 回程度の頻度でリユース事業者（ハードオフ福知山駅南町店）に販売・引渡を行っている。

平成 25 年度は、リユース品の収集・保管方法等も含めて、平成 24 年度と変わらず連携を継続している。

(リユースの実績)

平成 25 年 5 月から 11 月までの実績について、リユース事業者が買取りしたものは 57 点、5,630 円となっている。綾部市が一時保管した製品のうちリユース事業者が買取できなかった製品はほとんどない。

リユース事業者に買取された品目は、約 7 割がラジカセ、ビデオデッキ、スピーカー等のオーディオ類だり、その他として、ゲーム機器、楽器、プリンタなどとなっている。

取り置きは職員が交代で行っている。

図表 30 平成 25 年度リユースの実績 (綾部市)

	個数	売却金額
5 月	13	500
6 月	11	1,580
8 月	10	800
10 月	9	1,550
11 月	14	1,200
合計	57	5,630